



池袋本町地区校舎併設型小中連携校 建設に関する提言書

かみいけ ♡ いけほん つながり隊

地域文教部会

平成24年3月



池袋本町地区校舎併設型小中連携校建設に関する提言書

(目次)

●はじめに	1
● 池袋本町地区校舎併設型小中連携校建設に関する提言	3
1. 池袋本町地区の現況	3
(1) 位置	3
(2) 地域地区	3
(3) 学校施設の現況	4
2. 建設に係る条件等	6
(1) 池袋本町地区の改築計画	6
(2) 児童数・生徒数、学級数の推移等	8
(3) 学校について	9
(4) 学校の機能	10
(5) 池袋本町地区校舎併設型小中連携校について	11
3. 地域版建設構想	
(1) わたしたちの思い（コンセプト）	13
(2) こんな学校をつくりたい！（基本方針）	13
(3) こんな風につくりたい！（整備方針）	15
(4) 空間構成と配置計画について	20
(5) 池袋本町地区校舎併設型小中連携校建設の参考意見・要望	22
●資料	23
地域版建設構想検討の経過	23
(1) かみいけ♥いけほんつながり隊地域文教部会の活動概要	23
(2) 見学会の記録	24
(3) アンケート調査の概要	27
(4) 施設計画の検討ワークショップの概要	30
(5) かみいけ♥いけほんつながり隊地域文教部会部会員紹介&建設に向けて	38

●はじめに

かみいけ♥いけほん つながり隊
隊長 田中 幸一郎



平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災の発生から、早いもので 1 年が過ぎましたが、当時の地震・津波の被災地の情景は、まだ鮮明に記憶に残っております。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

首都圏直下型地震は、いつ起きるともしれない状況下にあります。震災対策など地域全体で取り組む課題については、地域住民が自主的・主体的に取り組んでいくことがますます重要となってきたと感じています。

私たち「かみいけ♥いけほん つながり隊」は、平成 18 年 4 月 1 日施行となった「豊島区自治の推進に関する基本条例」に基づき、区と区民の協働によるまちづくりを推進する目的で平成 22 年に当初は「北池袋モデル地域協議会」として発足しました。

地域協議会は、まちづくり、福祉などをテーマに地域で活動されている諸団体からご推薦いただいた代表者を構成員として全体会を組織し、そのもとに「地域活性化部会」、「福祉・教育部会」という 2 つの部会を設置し活動を開始しました。

今回、豊島区教育委員会から「池袋本町地区校舎併設型小中連携校」の建設に関する協議の依頼の話が来たとき、地域協議会の全体会で各委員の意見を求めました。学校は子ども達の学習の場であるとともに、地域コミュニティの核で、防災拠点となる施設であることから、地域の多様な団体の代表で構成されている地域協議会において取り組むことが適切であるとの意見で一致したので、学校建設構想について検討することとなりました。また、同時に、より地域にわかりやすく親しみやすい組織とするため、名称を「かみいけ♥いけほん つながり隊」に変更することといたしました。そこで、教育について検討する組織として、メンバーを再編し、新たに「地域文教部会」を発足させ 3 部会制といたしました。

地域文教部会での協議内容は適宜、全体会にも報告いただいておりますが、この度、「地域文教部会」より池袋本町地区校舎併設型小中連携校建設についての提言書がまとまったとの報告を受けました。子どもの学びと育ちの場所という学校本来の機能はもとより、地域の核として防災や地域の交流を意識した学校の位置づけとなっており、「かみいけ♥いけほん つながり隊」の総意として満足できる内容となっていました。この提言書の取りまとめに尽力された「地域文教部会」の委員の皆様には、本当に感謝申し上げます。

「池袋本町地区校舎併設型小中連携建設に関する提言書」の想いを最大限活かし、21 世紀を担う子ども達にふさわしい教育の拠点、地域コミュニティや高い防災機能を備えた地域の拠点としての学校建設をお願いいたします。



かみいけ♥いけほん つながり隊
地域文教部会
部会長 渡邊 靖彦

私たち、「かみいけ♥いけほんつながり隊 地域文教部会」は、平成 22 年度から池袋中学校の学区域である「上池袋地域（上池袋 2～4 丁目）と「池袋本町地域」とを対象として、より豊かで住みやすい新たなまちづくりを考えるために「北池袋協議会」として発足しました。平成 23 年度からは、より親しみやすい名称に変更するとともに、池袋中学校と池袋第二小学校の敷地に建設予定の池袋中学校と統合新小学校の校舎建設についての提言をまとめるため組織変更をし、新たに各小中学校の同窓会や隣接町会、さらに、池袋中学校とそこに進学する小学校 3 校の校長先生に部員としてご参加いただき、対象地域の代表者で再構成されました。

私たちは、「校舎建て替え」を考えるにあたり、年度当初から各種条件の勉強会や近年建設された学校の校舎の視察などを行い、今回の学校建設についての知識を深めると共に、この地域の歴史や文化をも踏まえて研究を深め、より良い施設が建設されることを願って活動して参りました。

「高密都市豊島」では公共施設用地確保は課題であり、この「校舎建て替え」についても「地域にとっての公共施設」としての「学校」という観点から多くの意見が出されました。東日本大震災や豪雨災害などが起きている中、防災拠点、避難場所としての学校施設の重要性もクローズアップされています。また、放課後や休日には、地域の方々の運動や交流の場としても大きな役割を果たしています。

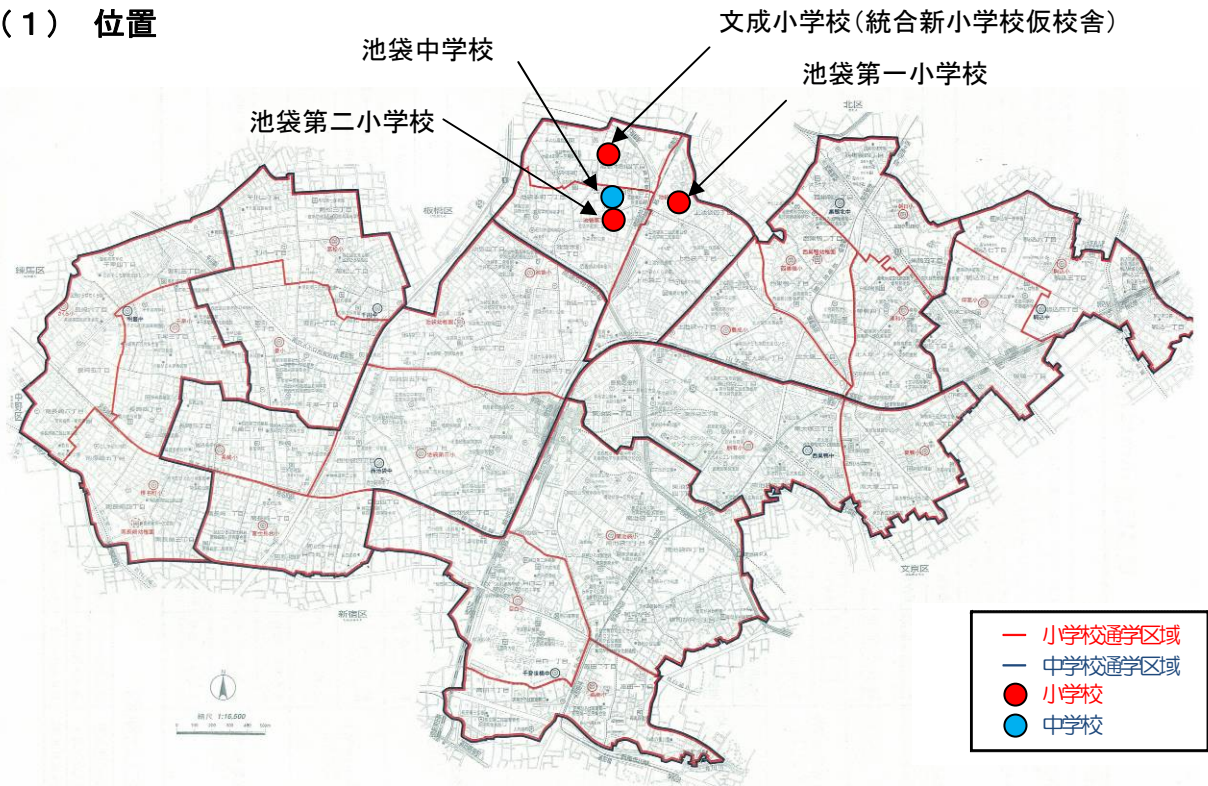
このような現代ならではの役割と、一番重要な子どもたちの学習・生活の中心としての学校施設と調和を念頭に議論やワークショップを重ね、この度、この「提言書」をまとめることができました。部員の皆さんが、選出母体の代表として、それぞれの立場から、様々な意見を出し合って議論を進めた結果、教育施設としても、地域の公共施設としても充実した立派な施設が建設されるべく、取りまとめることができました。

「校舎併設型小中連携校」という新しい命題をも包含し、プラス面とマイナス面を明らかにしておりますので、建設にあたってはマイナス面の払拭にご配慮いただきまして、「さすが豊島区」と全国にアピールできる校舎建設を切望しております。

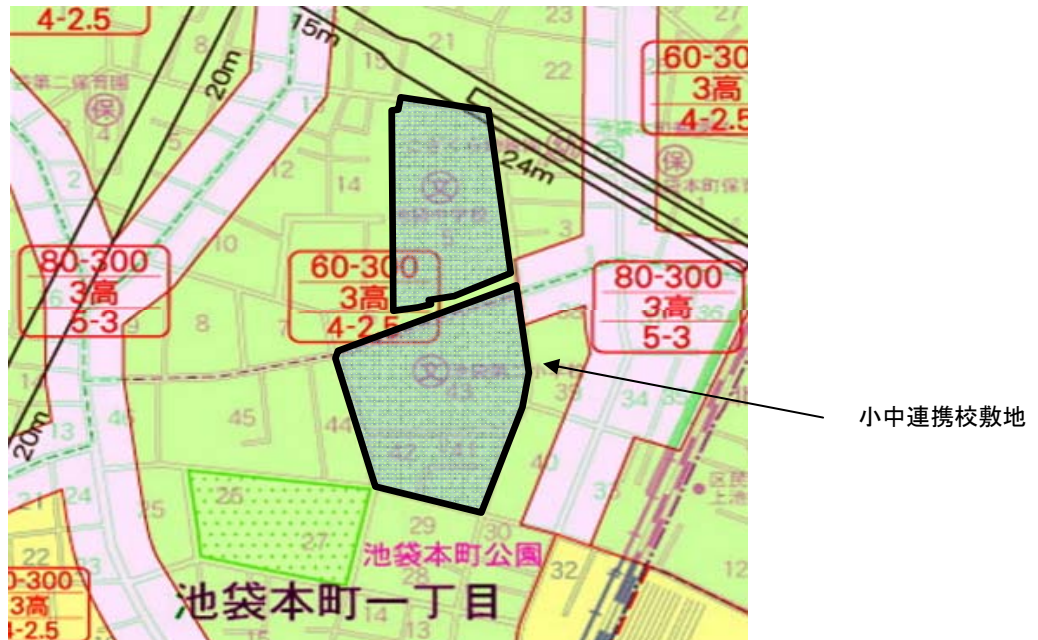
● 池袋本町地区校舎併設型小中連携校建設に関する提言

1 池袋本町地区の現況

(1) 位置



(2) 地域地区

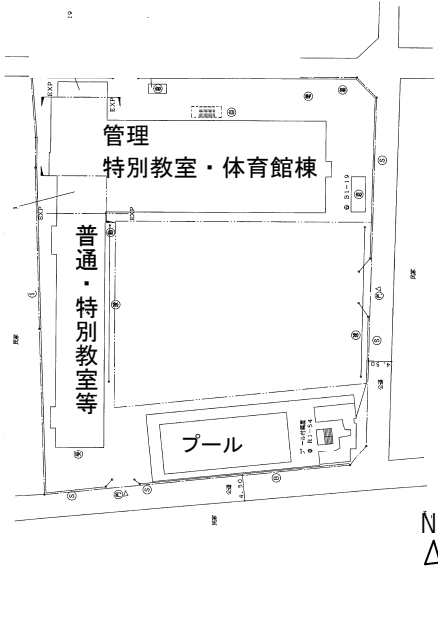
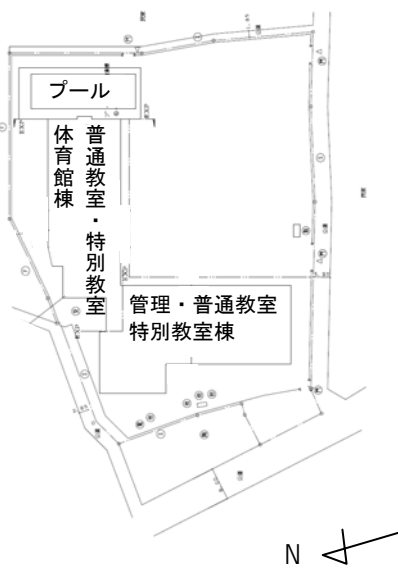


- 用途地域 : 第1種中高層住居専用地域
- 法定建ぺい率 : 60%、法定容積率 : 300%
- 防火地域 : 準防火地域
- 高度地区 : 第3種高度地区
- 日影規制 : 4h、2.5h (測定面の高さ : 4.0m)
- 道路斜線 : 1 : 1.25 (制限範囲は道路の反対側から 25mまで)

(3) 学校施設の現況

	池袋第二小学校	池袋中学校
計画用途	小中連携校校舎	中学校校庭
敷地面積	8,264 m ² (運動場面積 3,545 m ²)	10,275 m ² (運動場面積 3,800 m ²)
建物	<p>【校舎】 RC造3階建て 延床面積 4,246 m² 昭和38・47・48年度建設</p> <p>【体育館】 RC造/延床面積 663 m² 昭和38年度建設</p>	<p>【校舎】 RC造4階建て 延床面積 6,738 m² 昭和33・36・37 44・48年度建設</p> <p>【体育館】 S造/延床面積 982 m² 昭和33年度建設</p>
教室等	<p>学習関係諸室</p> <p>普通教室 8,理科室 1,生活科室 1,音楽室 2,図工室 2,家庭科室 1 コンピュータ室 1, 図書室 1,児童会室 1,多目的室 等</p>	<p>学習関係諸室</p> <p>普通教室 9,理科室 2,音楽室 2,美術室 2,技術室 2,家庭科室 3 視聴覚室 1,コンピュータ室 1, 図書室 1,ランチルーム 1,進路指導室 1,教育相談室、多目的室 等</p>
	<p>管理関係諸室</p> <p>校長室 1,職員室 1,事務室 1 主事室 2,保健室 1,会議室 1,放送室 1,印刷室 1,給食調理室 1,職員更衣室 2, PTA 室 2,子どもスキップ,倉庫 等</p>	<p>管理関係諸室</p> <p>校長室 1,職員室 1,事務室 1,主事室 1,主事作業室 1,保健室 1,会議室 1,放送室 1,給食調理室 1,職員更衣室 2,PTA 室 1,倉庫 等</p>
建物配置		

【参考】

	文成小学校	池袋第一小学校
計画用途	池袋第二小・文成小の仮校舎	小中一貫教育プログラムで連携
敷地面積	4,891 m ² (運動場面積 1,700 m ²)	6,013 m ² (運動場面積 2,699 m ²)
建物	<p>【校舎】 RC造3階建て 延床面積 3,811 m² 昭和44・45年度建築</p> <p>【体育館】 S造/延床面積 612 m² 昭和44年度建設</p>	<p>【校舎】 RC造4階建て 4,908 m² 昭和36・39・46・47年度建設</p> <p>【体育館】 S造/延床面積 558 m² 昭和39年度建設</p>
教室等	学習関係諸室	学習関係諸室
	普通教室 12,理科室 1,音楽室 1,図工室 1,家庭科室 1,コンピュータ室 1,図書室 1,ランチルーム 1,多目的室 等	普通教室 12,理科室 1,生活科室 1,音楽室 2,図工室 1,家庭科室 1,視聴覚室 1,コンピュータ室 1,図書室 1,ランチルーム 1,多目的室 等
	管理関係諸室	管理関係諸室
	校長室 1,職員室 1,事務室 1,主事室 1,保健室 1,会議室 1,放送室 1,印刷室 1,給食調理室 1,職員更衣室 2,倉庫 等	校長室 1,職員室 1,事務室 1,主事室 1,保健室 1,会議室 2,放送室 1,印刷室 1,給食調理室 1,職員更衣室 2,子どもスキップ,倉庫 等
建物配置	 <p>管理 特別教室・体育館棟</p> <p>普通・特別教室等</p> <p>プール</p>	 <p>プール</p> <p>普通教室・特別教室 体育館棟</p> <p>管理・普通教室 特別教室棟</p>

2 建設に係る条件等

(1) 池袋本町地区の改築計画

池袋本町地区の改築計画は、池袋中と池袋第二小学校・文成小学校の統合新小学校を別々の敷地に建設する計画から、同一敷地に校舎を併設して建設する計画に変更となりました。

① 当初計画

当初の計画は、池袋第二小学校と防災ひろばを合わせた敷地に池袋中学校を建設し、池袋中学校の跡地に池袋第二小学校・文成小学校の統合新小学校を建設するものです。

【改築スケジュール（変更前）】

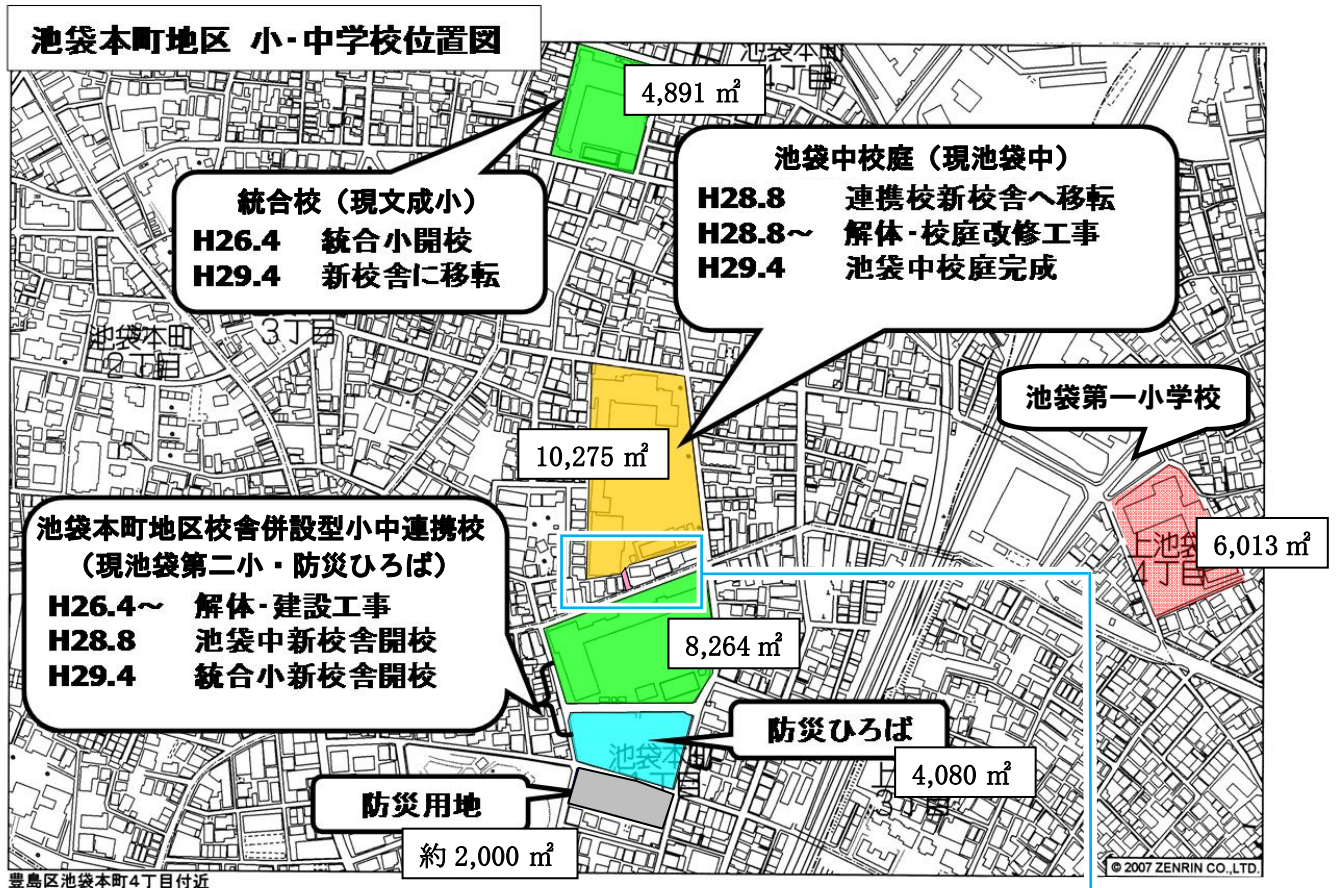
学校名	H26	H27	H28	H29	H30
池袋中 [現池袋第二小校地] 防災ひろば	工事	工事	新校舎 (4月開校)		
統合新小学校 [現池袋中校地]			工事	工事	新校舎 (4月開校)
仮校舎 [現文成小校地]	統合新小学校仮校舎				

② 変更後の計画

変更後の計画は、池袋第二小学校と防災ひろばを合わせた敷地に池袋中学校と池袋第二小学校・文成小学校の統合新小学校を併設させた校舎を建設し、池袋中学校の跡地に池袋中学校の校庭を整備するものです。(P6 池袋本町地区 小中学校位置図参照)

【改築スケジュール（変更後）】

学校名	H26	H27	H28	H29	H30
池袋中、統合新小学校 [現池袋第二小校地] 防災ひろば	工事	工事	工事 池袋中 新校舎 (8月開校)	統合新小学 校新校舎 (4月開校)	
池袋中校庭 [現池袋中校地]			解体工事 校庭整備	新校庭	
仮校舎 [現文成小校地]	統合新小学校仮校舎				



③ 計画変更の経緯

平成 20 年 7 月に「豊島区立小・中学校改築計画」が策定された後、教育基本法及び学校教育法の改正をふまえて、「豊島区教育ビジョン 2010」を平成 22 年 3 月に策定しました。

「豊島区教育ビジョン 2010」では、「小学校と中学校の円滑な接続」を重視した「小中一貫教育連携プログラム」が重点事業とされています。

その「小中一貫教育連携プログラム」の考え方を推進・実践していく場として、池袋本町地区校舎併設型小中連携校を建設することとなりました。

(2) 児童・生徒数、学級数の推移等

①児童・生徒数、学級数（平成23年5月1日現在）

小学校

学校名	学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計
池袋 第二小	児童数	28	21	40	45	30	37	201
	学級数	1	1	1	2	1	1	7
文成小	児童数	64	49	40	37	49	36	275
	学級数	2	2	1	1	2	1	9
池袋 第一小 【参考】	児童数	62	70	47	61	60	51	351
	学級数	2	2	2	2	2	2	12

中学校

学校名	学 年	1 年	2 年	3 年	合計
池袋中	生徒数	97	99	115	311
	学級数	3	3	3	9

②推計（平成23年度東京都作成）1年生35人学級、その他40人学級で試算

小学校

学校名	年 度	24	25	26	27	28
池袋 第二小	児童数	184	177	—	—	—
	学級数	7	7	—	—	—
文成小	児童数	297	309	—	—	—
	学級数	10	10	—	—	—
統合新 小学校	児童数	—	—	491	501	529
	学級数	—	—	15	16	17
池袋 第一小 【参考】	児童数	345	329	322	318	300
	学級数	12	12	12	12	12

中学校

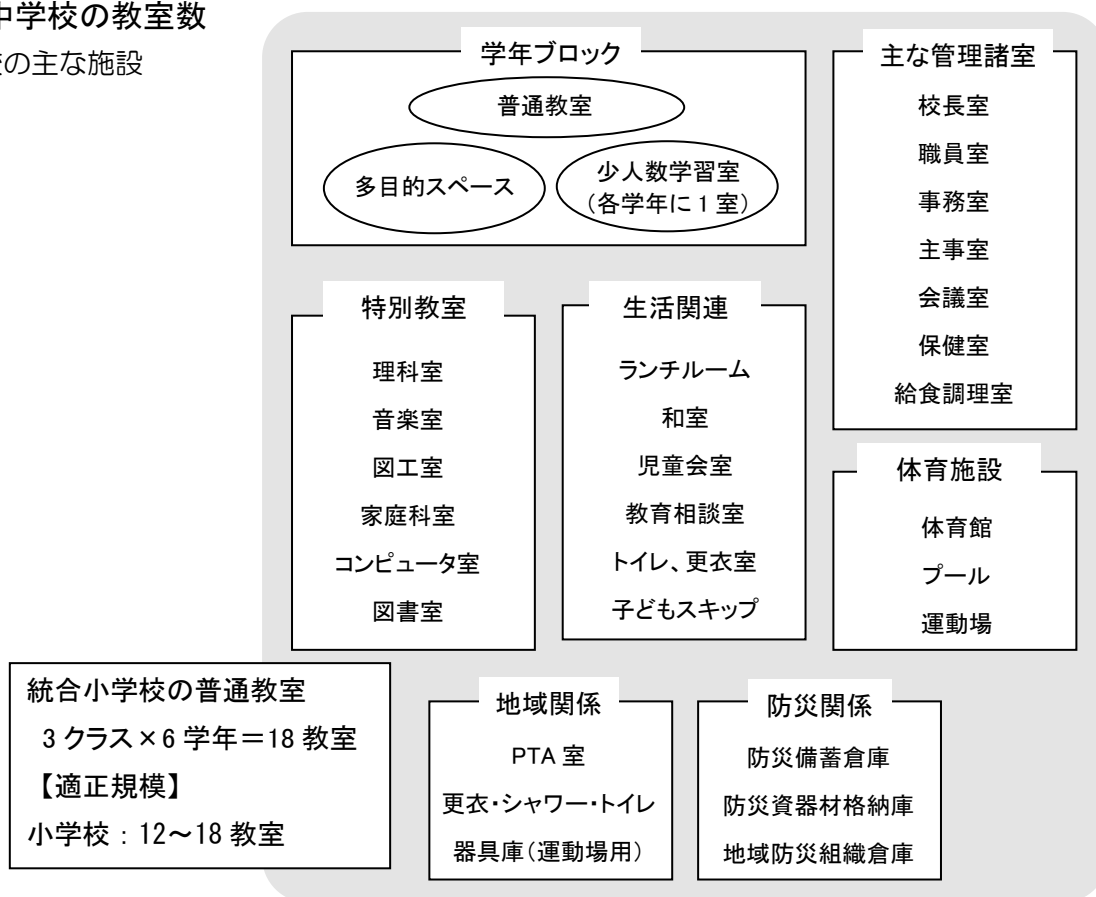
学校名	年 度	24	25	26	27	28
池袋中	生徒数	280	275	274	273	266
	学級数	9	9	9	8	8

※推計値は隣接校選択制等の要素を加味していない。

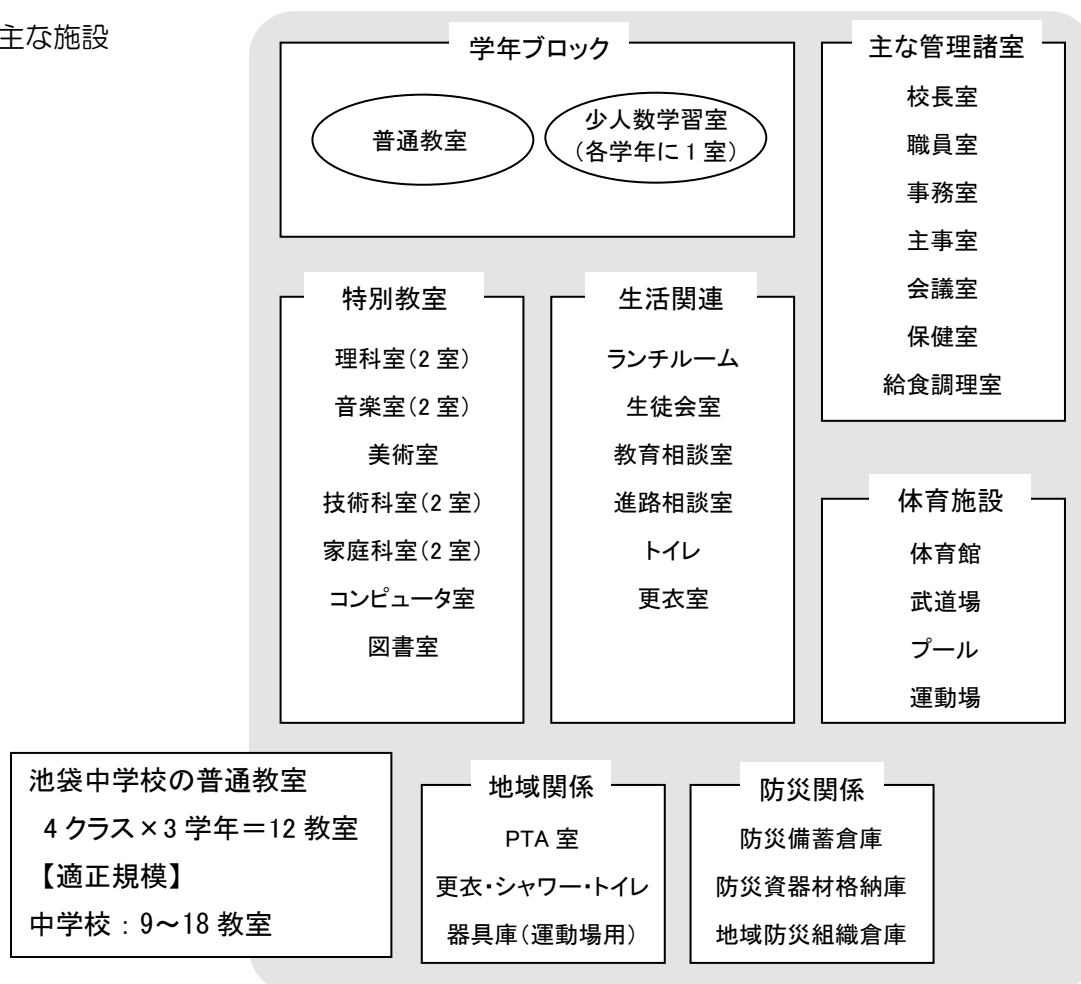
(3) 学校について

①小中学校の教室数

小学校の主な施設



中学校の主な施設



②各校の教育目標

【池袋第一小学校】 ○よく考えがんばる子 ○仲よく助け合う子 ○明るく健康な子	【池袋第二小学校】 ○仲良く助け合う子 ○進んで学習する子 ○いっしょうけんめい働く子 ○力いっぱい運動する子
【文成小学校】 ○みんな考えて ○みんな仲よく ○みんな元気に	【池袋中学校】 ○すすんで学び、実践する人 ○感謝する心を持ち、責任を果たす人 ○心身ともに健康な人

(4) 学校の機能

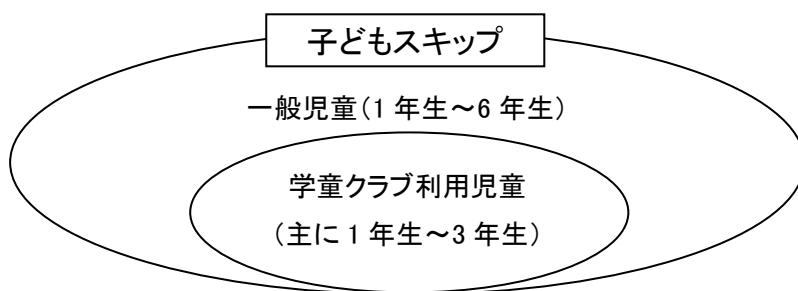
①救援センター機能（地域本部）

救援センターは、震災時に地域の避難所であるとともに、応急救護活動の拠点として次の機能を有する。

1. 防災行政無線等の整備による災害情報の収集伝達
2. 炊飯器・ろ水機等の整備による給食給水活動
3. 傷病者のための応急医療救護活動
4. 被災者のための一時的な宿泊場所の提供

②子どもスキップ

学校の教室、校庭、体育館等を活用し、小学1年生から6年生までの児童を対象として、自主的な参加のもとに遊びをとおして、子ども達が交流を広げる事業



○開設時間

平日：当該小学校の授業が終わってから校庭開放終了時間まで

※学童クラブ利用児童は午後6時まで

土曜日：午前10時から午後5時まで

※学童クラブ利用児童は午前9時から午後5時まで

休業日：日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

③地域利用機能

- ・地域活動の場
- ・地域のスポーツ、集会等の場

(5) 池袋本町地区校舎併設型小中連携校について (豊島区の説明より)

① 小中一貫教育連携プログラムについて

教育基本法及び学校教育法の改正をふまえ、豊島区教育委員会では平成22年3月の「豊島区教育ビジョン2010」を策定し、その中で「小中一貫教育連携プログラムの推進」を重点事業として位置づけた。

(ア) 基本的な考え方

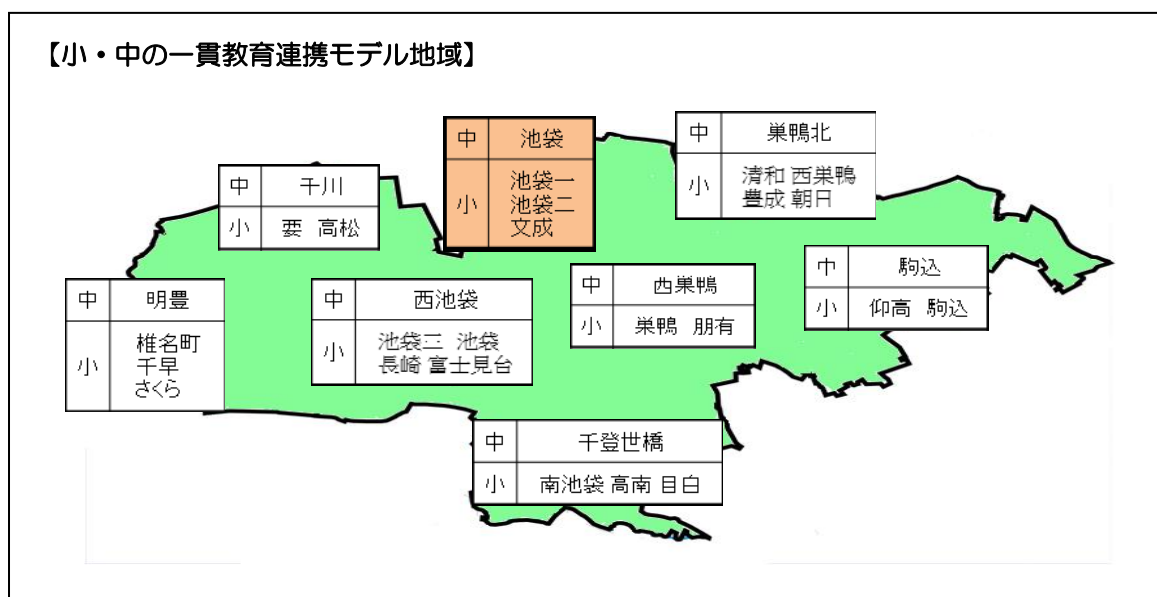
本区の校舎併設型小中連携校は、他の自治体で実施しているような特区を申請し、義務教育9年間で年齢段階に応じて4年ー3年ー2年のように分け、特別のカリキュラムを作成し実施するものではない。現行の学習指導要領に則り、小学校6年、中学校3年に分け、同じ敷地内に小学校と中学校の校舎を併設するものである。

(イ) 意義と効果

小中学校のそれぞれの独立性を担保するとともに、9年間の学びと子どもの育ちの連続性に焦点を当て、小中学校の連携・交流プログラムが充実できるようにする。そして、9年間を見通した児童・生徒の学力や体力の向上と豊かな人間性の育成を目指している。

(ウ) 小中一貫教育連携の8つのブロック

豊島区が目指している「小中一貫教育連携プログラム」は、区内の小中学校を、8つのブロックに分け、すべての小中学校を対象として実践していくものである。少子化社会の中で、モデルなき時代を生きる子ども達を取り巻く、小・中の接続に起因する問題を、各学校が連携することで解決しようとするものであり、一部の学校区において推進するものではない。



(エ) 池袋中学校区連携ブロックの取り組み

池袋中学校区連携ブロックについては、すでに池袋中学校を中心に、池袋第一小学校、池袋第二小学校、文成小学校の4校の教員間で連携推進委員会を組織し、連携プログラムの実施に着手している。

今後、中学校の教員が小学校に出向き、教科の専門性を生かした授業をしたり、小学校の教員が中学校に出向いて、生活指導や教育相談に積極的に協力したりするなど、小学校と中学校の教員が互いに力を合わせ、小・中学校の教育活動の改善・充実に努めていく。

② 連携校の施設

(ア) 施設の有効活用

校舎を併設することで、共有部分を活用し、小中の連携・交流を効果的に行うことができるよう計画している。例えば、図書室やランチルームなどを共有化することにより、児童・生徒が一同に会した交流・連携や幅広く蔵書に目をやり、知的好奇心を高めることが期待できる。さらに蔵書の一元管理が可能となる。

(イ) 運動施設等

池袋中学校の校庭が1万平方メートルを超えることから、公式のサッカー場、野球場、200メートルトラックなど多機能を有する校庭として整備することができる。校庭には休憩室やシャワールームを設置し、生徒や区民のさらなる利便の向上を図るとともに、体育館やプールについても今より広いスペースの確保が可能となる。

広い校庭や体育館については、大規模なスポーツ大会や各種行事など、様々な利用に供することができる。さらに、体育館、会議室等の施設を地域開放ゾーンとして集約し、学習機能とのゾーニングを工夫することにより、活用の幅が広がる。

3 地域版建設構想

(1) わたしたちの思い（コンセプト）

小・中・地域 絆深まる連携校 ～学び・交流・防災の拠点～

小学生と中学生が共に学びあい、学校生活を送る中で、絆を育みながら楽しく健やかに過ごせる連携校をつくる。学びや伝統・文化を通じて交流が楽しめ、子ども達だけでなく、先生・地域・近隣の学校ともつながることができる心地よい空間のある学校であるとともに、防災力が高く、みんなが安心して集まることができる地域の核となる学校を目指す。

(2) こんな学校をつくりたい！（基本方針）

① 進んで学び 楽しく過ごせる連携校

- ・ 進歩し続ける学習内容・学習形態・ICT環境への対応を可能にする、柔軟で弾力的な教育環境を整備する。
- ・ 子ども達の学びと生活の場として、主体的な活動を支援し、豊かな創造性を発揮できる安全で快適な空間を整備し、確かな学力と豊かな心、健やかな体を育める環境をつくる。
- ・ 学校自体が環境教育や自然体験活動の教材として活用されるよう整備する。

② 小中の絆を育む連携校

- ・ 小中学校の連携に配慮しながら、共用空間と小中学校それぞれに独立した空間を整備する。
- ・ 小中の教職員や保護者の間に協働関係が構築しやすい施設を整備する。
- ・ クラスや学年を超えた子ども達の交流を促進し、他者との関わりの中で豊かな心の育成ができる空間をつくる。

③ 子どもも地域も安心できる連携校

- ・ 災害時に池袋本町地区の防災拠点としての機能を十分に発揮できる施設・設備を整備する。
- ・ 学校施設内における死角を極力排除し、子ども達の活動を地域から見守ることのできる教育環境を整備する。
- ・ 地域への開放の場として、地域の利便性を高め、魅力ある地域形成に努める。
- ・ 多様な利用者を考慮し、防犯対策等の安全管理、バリアフリー、福祉に配慮した学校をつくる。

④ 伝統・文化・歴史を学び受け継ぐ連携校

- ・ 国際社会に対応し、地域との交流を深めるため伝統・文化・歴史を学ぶ空間を整備する。
- ・ 新しい学校の新しい伝統・文化を創造し、繋いでいくことのできる施設・設備を整備する。

(3) こんな風につくりたい！(整備方針)

全体

- ・ 明るさと温かみのある雰囲気になるよう整備する。
- ・ 死角を作らないように配慮しつつ、連携校としての広さを活かして整備する。
- ・ 適切な日照・採光・通風や冷暖房設備の充実等の室内環境を備えた環境を整備する。
- ・ 子ども・教職員・地域利用者及び災害避難者等の多様な利用者を考慮し、出入口、スロープ、階段、トイレ等についてバリアフリーに配慮する。
- ・ 校舎内の各所で LAN に接続できる等、校舎全体における ICT 環境に配慮する。

教室(普通教室・特別教室等、子どもの利用する場所)

- ・ 学習活動に伴い、騒音・振動・臭気等を発生する教室は、他の空間・近隣に過度の影響を与えないように配慮する。
- ・ 普通教室は、日照、採光、通風等の良好な環境条件及び室内環境の確保に特に配慮して整備する。
- ・ 普通教室は、教職員・保護者等が廊下側から見とおすことができ、かつ児童・生徒の集中の妨げにならないように配慮する。
- ・ 図書室、コンピュータ室、視聴覚室等メディアを活用する学習を行う教室については、役割分担を明確にしたうえで、機能的な連携に配慮する。
- ・ 図書準備室は図書ボランティアの使用に配慮する。
- ・ ランチルーム、家庭科室、給食室等の調理・食事・食育に活用する部屋・設備については、関連・連携に配慮する。
- ・ 特別教室は子どもの学習や研究成果を展示・発表ができるよう整備する。
- ・ 教室はインターホンや鍵等で防犯対策を施す。

管理諸室

- ・ 職員室等の管理諸室は校庭・出入口等への見通しが良く、校内各所への移動のしやすい場所に設置する。
- ・ 保健室等のけがに対応する部屋は校庭等の運動施設との連絡が良く、緊急車両が乗り付けられる位置に配置する。
- ・ 保健室及びカウンセリング室等の相談に活用する部屋については日常に目に触れやすく、立ち寄りやすい位置にし、連携に配慮する。
- ・ 小学生が利用する保健室については、トイレやシャワーの設置を考慮する。
- ・ 教職員用の更衣室・シャワー等を設置する。

体育館・武道場

- ・ 体育館は災害時の避難場所になることを考慮した設備・配置とし、トイレや防災倉庫等の連携に配慮する。
- ・ 多様な運動種目と行事を想定した配置・構造・設備とし、校庭の広さを考慮した規模にする。
- ・ 発声・衝撃等の近隣への影響に十分留意して設置する。
- ・ 更衣室等と連携のとれる位置への配置に留意する。

プール

- ・ プールは屋内プールとし、使用状況・利便性等を考慮した上で、設置場所、規模・構造・設備について検討する。
- ・ 災害時の利用を考慮するとともに平常時の水の再利用を検討する。

トイレ

- ・ トイレは洋式・乾式で、男女別に適切な規模で使いやすく、清潔さを保つためのメンテナンスがしやすいように整備する。
- ・ 校庭から直接利用できるバリアフリーに配慮したトイレを整備する。

その他

- ・ ピロティ、ランチルーム等、雨の日でも 1 学年程度が集まれる広さのある場所を整備する。
- ・ 各フロアに、図書コーナーやベンチスペース等の休憩・交流し、くつろげる場所を整備する。

小中連携

- ・ 体育施設（体育館を除く）・特別教室については小中の共有化を検討し、適切な配置・規模・設備にする。
- ・ 小中が共用で利用する場所は、体格差に配慮した施設・設備とする。
- ・ 職員室は、小中連携に配慮した配置とする。
- ・ 体育館は、小中独立型とする。
- ・ 図書室は、小中の相互利用等の連携に配慮した配置とする。
- ・ 子ども達が一度に集まるスペースでは安全性・配置・動線に配慮する。
- ・ 小中学校の通常の学習・生活にそれぞれ適したゾーニングとする。

地域利用・地域開放

- ・ 各室の地域開放を検討した上で、地域開放スペースを整備する。
- ・ 災害時の利用も考慮した上で、学校と地域の動線が交差することのないよう独立動線の確保を行い、高いセキュリティを確保する。
- ・ 通常使用される規模の自転車置き場を整備に加え、イベント時にはたくさんの自転車が集まることを考慮したスペース作りをする。
- ・ 喫煙スペースについては考慮しない。

交流・コミュニケーション・子どもの放課後

- ・ 子ども・教職員・地域住民が交流・相談できる場所を整備する。
- ・ 藍染め・太鼓・米づくり・茶道・舞踊等の伝統文化を学べる場所を整備する。

- ・ 子どもスキップが学校施設と連携しつつ、独立性を保てるように校地内に整備する。
- ・ 中学生の放課後の居場所について検討する。

防災

- ・ 地域の防災拠点としての機能を十分に備えた施設を整備する（マンホールトイレ・備蓄倉庫・非常用発電設備ほか）。
- ・ 救援センター機能の充実のため、防災用地の活用を検討する。
- ・ 災害時のプールの水が活用できる設備を検討する。
- ・ 災害時の近隣から学校への避難経路に配慮する。

校庭・外構・近隣配慮

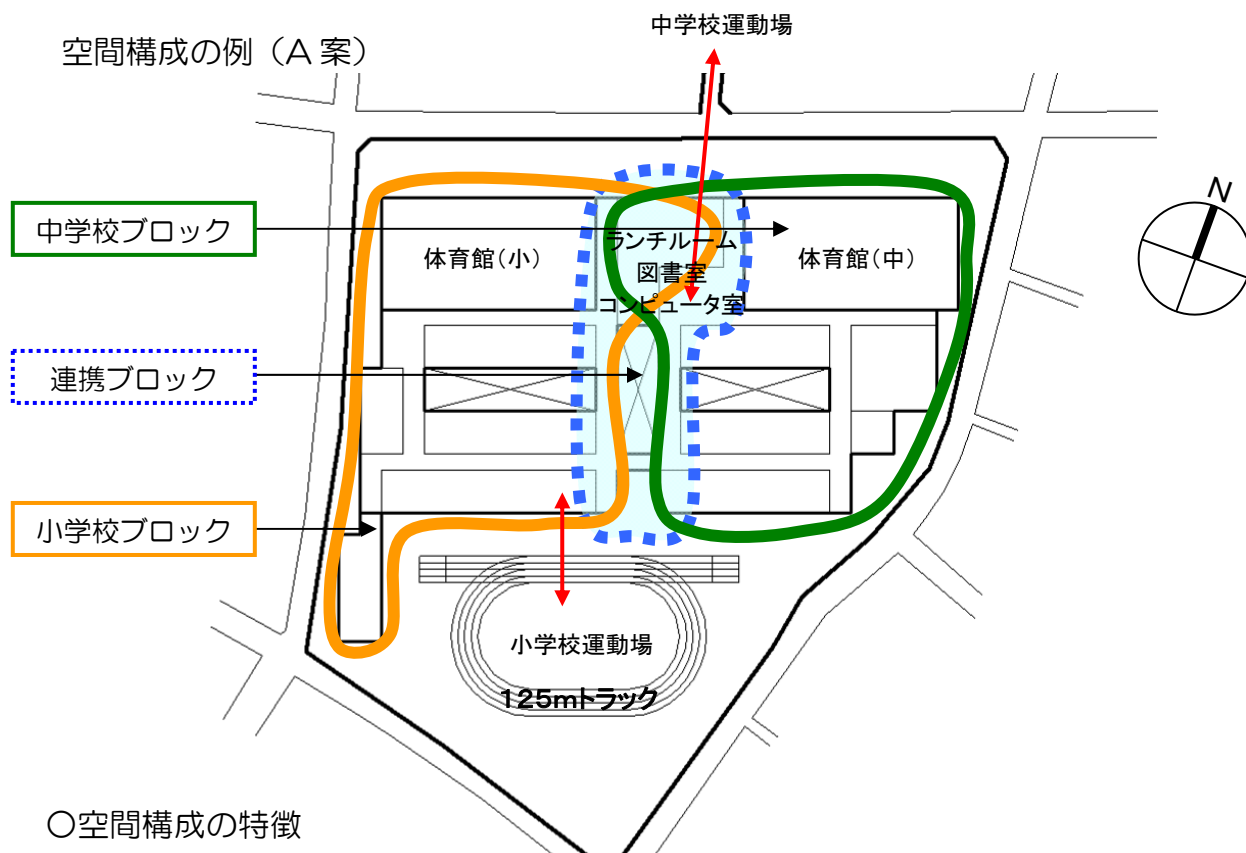
- ・ 校庭舗装・規模は利用状況、騒音・ほこり等、近隣への影響、災害時の活用等に配慮する。
- ・ 校庭の温度上昇に配慮する。
- ・ 校庭に緊急車両やバス等の大型車両の乗り入れを検討する。
- ・ 中学校の校庭に、倉庫、トイレ、シャワー、救護室等の管理棟を整備する。
- ・ 中学校の校庭に生徒が移動する際の安全を確保する（歩道橋等）。
- ・ 近隣に対し、学校活動に伴う騒音やボールの飛び出し等に配慮する。
- ・ 学校の入口は安全かつバリアフリーであるとともに、犯罪・事故防止の観点から、職員室や主事室等の管理所室からの見通しが良く、死角とならない位置に設置するよう配慮する。
- ・ 児童・生徒の作品を展示する等、地域が学校を身近に感じられるよう整備する。
- ・ 学校の周囲は歩行通路や大型車両の通行に配慮する。
- ・ 地域交流や災害を考慮した緑化計画とする。
- ・ 敷地の有効活用を図るため、駐輪スペース等の地下利用を検討する。
- ・ 外構計画は、大雨の際の雨水を自校地内で処理できるよう配慮する。

環境配慮

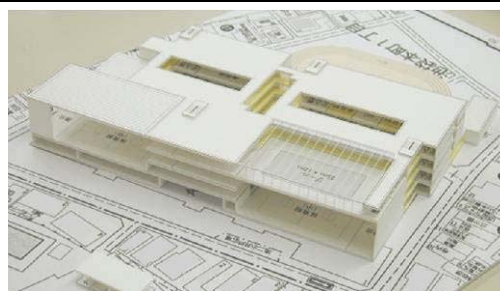
- ・ 環境負荷の低減や、自然との共生を考慮して整備する（太陽光発電・雨水利用・屋上緑化等）。
- ・ 学校自体が環境教育の教材として活用されるよう、自然と触れ合う機会が増えるよう整備する。
- ・ 温熱効果ガスの排出量を削減するため、断熱化や日射遮蔽等の建物性能の向上を図るとともに、照明や冷暖房設備等の効率化を図る。

(4) 空間構成と配置計画について

施設配置等に関して、2つのプランについて模型を使って意見交換を行いました。



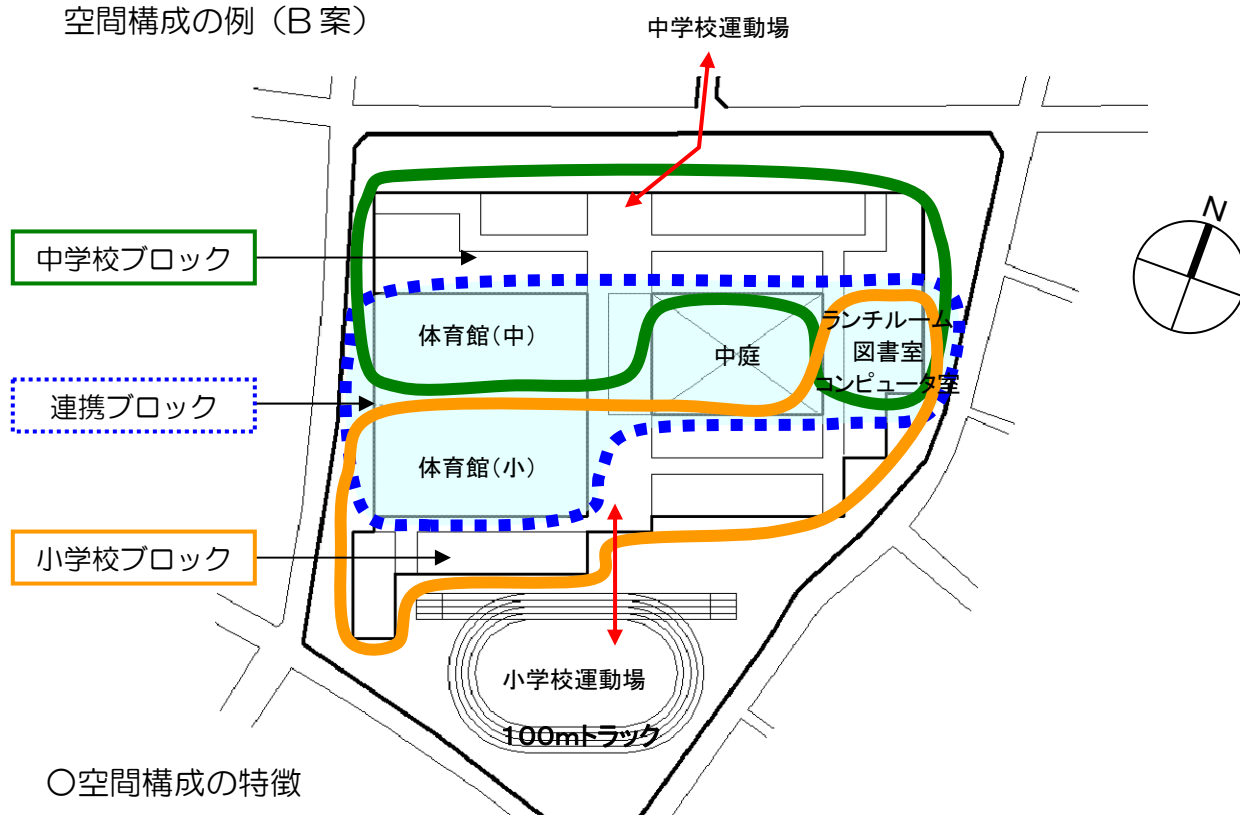
場所	特徴	部会での主な意見
配置	小中ブロックを東西に配置し、 連携ブロックは東西方向の中央に配置	B案よりこちらのほうが よさそうである
体育館	小中独立して設置 (小学校体育館1F・中学校体育館2F)	隣の音が気にならなくて よい
校庭	B案より広く、トラックは現池袋第二小 (120m)よりも大きくとれる	トラックが大きくて良い
プール	屋上に室内プール(4F)	室内プールが良い
中庭	小学校と中学校それぞれに配置されている。	小学校棟にも中学校棟にも 中庭からの日光が当たる



部会で検討を行った2つのプラン以外にも、様々な構成が考えられることから、整備方針を踏まえた今後の設計での検討を期待します。

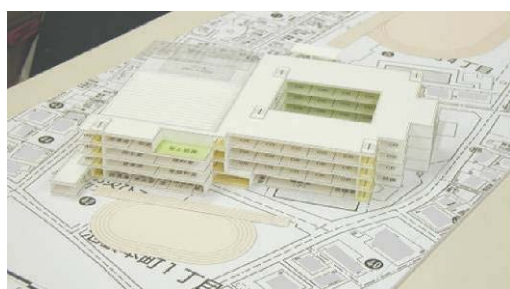
*トラックの大きさなどは想定です。詳細は設計段階で決定します。

空間構成の例 (B案)



○空間構成の特徴

場所	特徴	部会での主な意見
配置	小中ブロックを南北に配置し、 連携ブロックは南北の中央に配置	校庭が狭く、体育館が一体 配置のため使いにくそう
体育館	小中を一体にして配置し、広く使用できる(1F) (通常利用には支障があるため、独立性を保つための 構造的な工夫を要する)	広い体育館は魅力的だが、 通常利用の使い勝手がより 重要
校庭	A案より校庭が狭い	トラックは大きいほうが 良い
プール	屋上に室内プール(4F)	室内プールが良い
中庭	小中の共用スペースに広く確保することができる	南北配置のため、中学校側 に日光が当たるか不安



(5) 池袋本町地区校舎併設型小中連携校建設の参考意見・要望

池袋本町地区校舎併設型小中連携校 「地域版建設構想（案）」地域説明会
平成24年1月26日開催

参加者の意見・要望を以下のようにまとめました。（参加者26名）

- 校舎併設型小中連携校の計画に賛成である。池袋本町地区にこれだけの大型プロジェクトが入ることが考えられない。地域全体の活性化を考えて、チャンスだと思うので、連携校を建設してほしい。
- いじめの問題解決として縦のつながりをすすめていくことが必要ではないか。小学生の面倒を中学生が見るとか、小中が部活で交流をするなど、運動部だけでなく文化部も交流し、いろんな人間関係が体験できると思う。小中連携校にしてほしい。
- 池袋本町地区校舎併設型小中連携校の計画について地域住民の意見をきいてくれないのか。
- 子ども達の間には縄張り意識があり、池袋第一小卒の生徒が中学入学時になじめないのではないかと。統合新小学校と池袋第一小が同時に同じ条件で中学に進学できることが一番良いと思うので、小学校と中学校を別々に建設してほしい。
- 池袋本町地区に大型車両が入れない。学校は防災・災害の拠点であるので、考えてほしい。
- 校舎から中学校校庭への移動用の歩道橋をかけてほしい。



● 資料

地域版建設構想検討の経過

(1) かみいけ♥いけほんつながり隊地域文教部会の活動概要

回	開催日	内 容	備 考
第1回	5月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・会の活動について ・豊島区立小・中学校改築計画について ・各学校の現状について 	
第2回	6月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・上池袋・池袋本町地区のまちづくりについて ・建設における条件・課題等について ・アンケート調査・広報活動について 	
見学会	7月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・豊島区立南池袋小学校見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・瓦版第1号発行 ・アンケート調査実施
見学会	7月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・文京区立窪町小学校見学 	
見学会	8月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・北区立王子小学校・王子桜中学校見学 	
第3回	9月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・防災対策 ・豊島区の教育について ・子どもスキップについて ・池袋本町地区の小・中学校の教育について ・学校見学会の報告 	
第4回	9月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果報告 ・建設構想の検討について（ワークショップ） 	
第5回	10月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・建設構想の検討（ワークショップ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・瓦版第2号発行
第6回	11月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・建設構想の検討（ワークショップ） 	
第7回	12月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・提言書（案）検討（建設構想とりまとめ） 	
第8回	1月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・提言書（案）作成 ・地域説明会の進め方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域説明会の開催
第9回	2月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・提言書策定 ・区長提言の進め方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・瓦版第3号発行
	3月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・区長提言 	

(2) 見学会の記録

①豊島区立南池袋小学校 (平成23年7月10日)

豊島区内の新設校である南池袋小学校では、主に新設校での施設・設備がどうなっているのかを見学しました。同校では、オープンスペースと一体となった教室に特徴がありました。



オープンスペースには可動式ロッカーを設置、レイアウトを変えることができる。また、ベンチや畳コーナー、小部屋ユニット等も配置。

屋上のソーラーパネル



コンピュータールームと図書室の仕切りは全開し、一体的な利用が可能。

理科室。東側は図工室と連続するテラスとなっている。



ランチルーム(左)は連続する屋外テラスでの食事も可能。家庭科室(右)と可動間仕切りによって区分、一体的な利用ができる。

通級指導教室 (プレイルーム)



広いピロティ



職員室は OA フロアを採用。防犯、防火、放送呼び出し等を一括集中管理しており、使いやすい。



②文京区立窪町小学校（平成23年7月28日）

同校の校舎は、関東大震災復興の一環として建てられた歴史ある旧校舎のイメージを継承するとともに、オープンスペースや防災拠点、エコスクール等、今の時代にあった考え方にもとづく工夫を多く取り入れています。また、安全の観点から、事故防止に配慮した工夫が多く見られました。



旧校舎を彷彿とさせる校舎のデザイン



校歴展示室には旧校舎の照明も。



可動式屋根の屋内プール



校庭のかまどベンチ



教室・廊下はすべてに間伐材を使用した腰板を用い、木の多い学校に。



オープンスペースと教室部分の仕切りには可動式パーティションを設置。



○や□のデザインで、避難時等に選択を間違えない配慮をした階段。



各室の扉は丸窓のガラスの種類（透明または曇りガラス）で、児童の使う部屋と使わない部屋を区別。



1階の多目的ホール。クラス合同学習、学校全体の集まり、地域の集まり等に多目的に使用。



校門から保健室まで、直接救急車のアクセスが可能。

③北区立王子小学校・王子桜中学校（平成23年8月2日）

小中学校の併設型校舎として見学しました。同校は、教室や体育館、メディアセンター等は、小学校と中学校をきちんとエリア分けし、ランチルーム、ホール、プール等は共用という形で運営されています。職員室や事務室等の管理スペースは隣接し、日常的に小中学校間の行き来が可能となっており、職員間の連携の工夫がありました。



校門を入り、右側が小学校入口、左側が中学校入口、正面が校庭。



校庭は一つで、通常は低いフェンスで区切って使用。



小・中学校間の児童・生徒の行き来はエリア分けされている。



小学校はオープンスペースと教室の境に、開閉式の引き戸を設置。



小・中学校共用のランチルーム



中学校はオープンスペースと教室の境は、全面が開閉するつくりにはなっていないが、開口部を多くとっている。



プールの下にあるため、梁が非常に太いつくりの小学校体育館。



職員の連携に配慮し、隣接して配置され、小・中の職員が行き来が可能になっている職員室。



メディアセンターは、小学校は3階、中学校は4階に配置され、それぞれの気配が感じられるよう、吹き抜けを設けており、階段でつながれている。



プールは小・中学校で共用しているが、小学校側に配置されている。

(3) アンケート調査の概要

部会では、多くの方のご意見をお聞きし、地域版建設構想へ反映させるため、7月に地区内の各小学校および池袋中学校の児童・生徒、保護者、教職員及び通学区域内の区民の方々を対象にアンケート調査を実施しました。

配布対象	配布数	回収数	回収率
児童・生徒 (池一小・池二小・文成小・池中)	1,138	921	81%
保護者 (池一小・池二小・文成小・池中)	985	192	19%
教職員 (池一小・池二小・文成小・池中)	101	33	33%
小 計	2,224	1,146	52%
通学区域の区民 (池一小・池二小・文成小・池中)	130	23	18%
全体計	2,354	1,192	51%

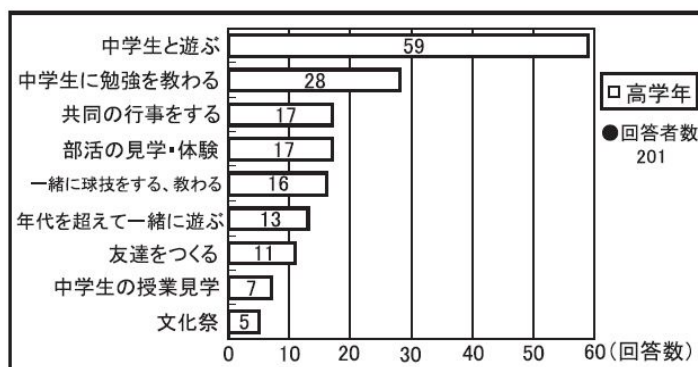
※この他、インターネットによる地域からの回答10件

■調査結果の一部紹介

一緒に建物になったらしてみたいこと（複数回答可）

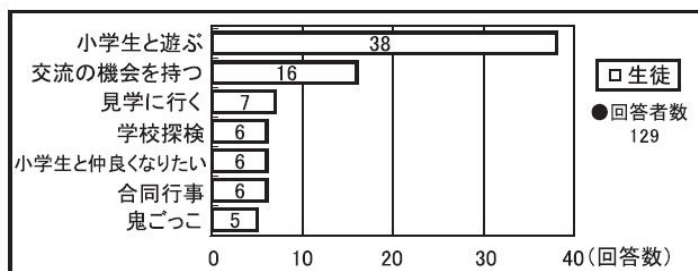
●小学生（4～6年生のみ）

小学生は「一緒に遊ぶ」「勉強を教わる」「行事をする」「球技（サッカーや野球）をする」等、一緒に何かを行ったり、教わることに對する期待の他、「部活の見学・体験」や「授業見学」等、将来の中学校生活をイメージできる機会への期待が多い結果となっています。



●中学生

中学生も「一緒に遊ぶ」「交流の機会を持つ」「一緒に行事を行う」等、一緒に何かを行う機会への期待が高い結果となっている他、「学校探検」や「校内での鬼ごっこ」等、連携校として大きくなる校舎への関心が伺えます。

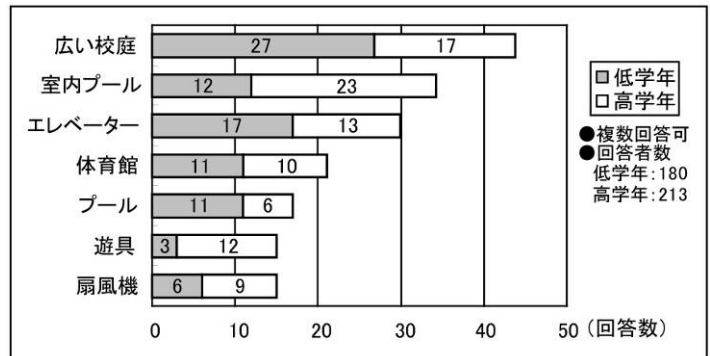


これからの学校に新たに必要なもの（複数回答可）

●小学生

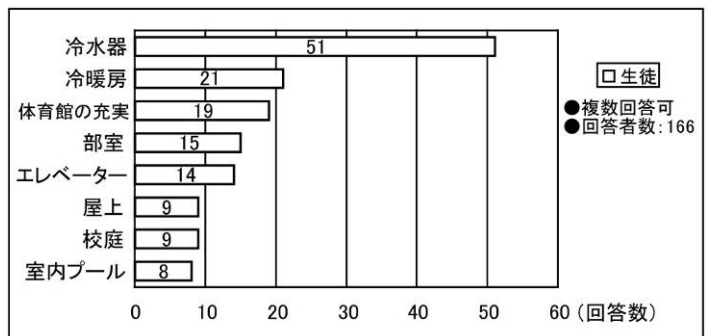
低学年（1～3年生）は「広い校庭」、高学年（4～6年生）は「室内プール」を一番にあげています。「広い校庭」については「サッカーと野球ができるように」「運動会で保護者が校庭に入れるように」等があげられました。

また、「室内プール」については「雨でも入れる」「冬でも入れる」等の理由がありました。する回答が多い結果となっています。



●中学生

「冷水器」「冷暖房」「体育館の充実」等が上位にあげられています。「体育館の充実」の具体的な内容については、「もう少し広く（部活で半面しか使えない）」「第二体育館がほしい」「体育館にエアコンがほしい」等がありました。

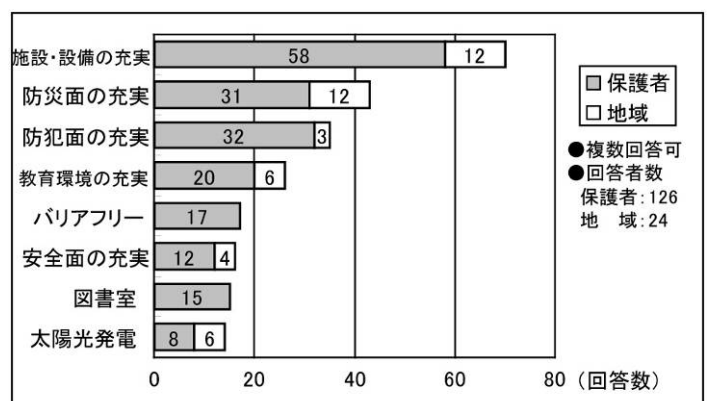


●地域・保護者

保護者・地域ともに、「施設・設備の充実」がもっとも多く、具体的には、「メディアルームの完備」「体育館、専科の教室設備の充実」「児童数の増減に柔軟に対応できる教室」「小中学生が関わりをもてる場所」等がありました。

保護者は「防犯面の充実」が続きます。具体的な内容としては「オートロック」「防犯カメラ」「見守りのおとながいる」等がありました。

地域では「防災面の充実」が続きます。具体的な内容としては「仮設トイレ等の充実」「救援センターとしての機能の充実」「災害時の拠点としては、現状では不十分」等がありました。

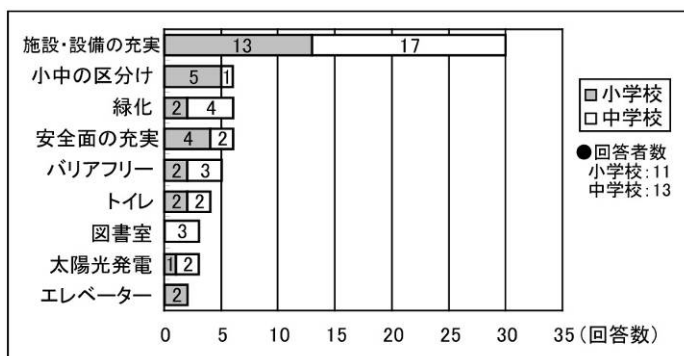


●教職員（小・中学校）

小・中学校ともに、「施設・設備の充実」がもっとも多く、具体的には、「武道場」「フリースペース」「子ども達が思い切り遊べる校庭」等があげられました。

小学校は「小中の区分け」が続きます。具体的には「低学年の遊ぶスペースを中学生と分ける」「小・中が一緒に使える図書館」「仕切りを取ると一体化する体育館」等がありました。

中学校は「緑化」が続きます。具体的な内容としては、「校舎に沿って木を植える」「屋上庭園」「芝生化」等がありました。



■自由意見から・・・

●生徒（回収数 300 件）

「部屋を広くしてほしい」「太陽光発電等の環境に配慮した学校にしてほしい」等、新しい学校への要望が多く寄せられました（23 件）。

また、「きれいな学校にしてほしい」と期待を寄せる声も多い（9 件）一方で、「今のままで大丈夫」「変わるのは嫌だ」という建替えをしないでほしいという反対意見（9 件）や、「全部取り壊さないで階段や一つの教室でも残してほしい」や「池中の歴史や池二小、文成小の歴史を残したい」等の意見がありました（8 件）。

●地域・保護者（回収数 215 件）

地域からは工事中の騒音や安全に配慮を求める声や（2 件）、防災に関する声（2 件）がありました。また、「震災などがあった時、校舎が 2 つあった方がよい」「公道を通して授業や部活に往復するのは危険」という反対意見もありました（4 件）。

保護者からは、小中の校舎を併設型とすることについて「意図がわからない」「小学校の嫌な人間関係をリセットしたほうが良くなる」等の反対意見がありました（4 件）。また、仮校舎での運動場の広さや教室数の不足を懸念する意見や（11 件）、防災に関する意見も（4 件）ありました。

(4) 施設計画の検討ワークショップの概要

①ワークショップの目的

「池袋本町地区校舎併設型小中連携校」をどのような学校にしたいか、より多くの意見をあげ、建設構想のコンセプト、基本方針、整備方針、施設配置等について議論しました。

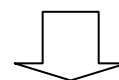
②ワークショップの主な内容

■ワークショップ1 (9月30日)

「こんな学校にしたい」

「こんな学校にしたい!」をテーマに、一人ひとりが新しい校舎への意見を自由に出し合いました。

資料：① 第1回ワークショップ検討のまとめ P31



■ワークショップ2 (10月17日)

「こんな風につくりたい」

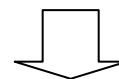
1回目のワークショップの意見を基に作成した「コンセプト」「基本方針」について、検討しました。また、「どんな風につくりたいか」について、2グループに分かれて意見を出し合いました。

資料

②-A 第2回ワークショップ検討まとめAグループ P32

②-B 第2回ワークショップ検討まとめBグループ P33

③ワークショップ意見から整備方針のまとめ P34



■ワークショップ3 (11月17日)

「こんな施設配置にしたい」

2回目のワークショップの意見を元に「整備方針(案)」について検討しました。施設の配置に関して、2パターンの模型を使って検討しました。

資料：④ 第3回ワークショップ検討のまとめ P37



新しい教育環境に対応した空間

省エネ・エコ・緑	
手洗いは自動水洗(節水)	雨水利用
トイレの電気は感知式(節電)	壁面緑化
教室にベランダ(日除け目的)	太陽光発電
屋上緑化	
設備	
冷暖房完備	図書室に司書を配置
体育館は冷暖房設置	図書準備室がある学校
全教室にエアコンがある(準備室はなくても可)	メディアゾーンとする(図書室とPC室)
エアコンのある教室・体育館のある学校	メディアセンターのある学校
冷水機の設置は管理が難しい	調べ学習の部屋をメディアセンターに
部活の後に使えるシャワールーム設備【中学校】	ICT 設備が充実した学校
保健室内にトイレとシャワーを設置	パソコンルームは設けず、全教室で利用できる環境にしたい
保健室にトイレとシャワー室を	保健室とカウンセリングルームを隣にして行き来できるようにする
教員用更衣室・シャワーなど設置	
車いす用のトイレ設置	エレベータ設置
トイレの入口はドアがなくても見えない方式	エレベータの設置(車いす)
トイレは洋式・ドライ方式	来校者の管理が徹底できるような入口に
トイレは男女離して、きれいなものをつくってほしい	不審者をおさえられる仕切りの仕組み
トイレは乾式、洋式トイレのある学校	職員室と教室をインターホンで結ぶ
個別ロッカー(鍵付き)【中学校】	

小・中の絆を育む

図書室・ICT	職員室
図書館は小中で一体的に使えるようにしたい	小中の職員室は隣り合わせの学校
広い図書室(小中一緒 小中別に)必要に応じて	職員室はガラス張り(ティーチャーズセンター)
小・中の図書室を互いが使用できるように近接型にする	ランチルーム
小・中の絆	ランチルーム(小中共用の広いランチルーム)
小中は一応、区分する	ランチルームのある学校
小学校・中学校では文化が違う。校舎・施設は別々に・・・!	ランチルームの設置
中学校のスペースと小学校のスペースの区別をはっきりしてほしい	給食室が見えるランチルーム
教室	
教室の廊下側の壁は引き戸方式で、時にオープンにできる方式【小学校】	風通しのよい教室(通気)
教室は普通の教室のつくり	中学校の教室はオープン教室でない方がよい【中学校】
教室内に鍵(不審者対策)	
1階にピロティを広くとる 雨の時、1学年くらい集まれる広さ	ミニステージ付きの音楽室
子ども用の更衣室	オープンスペースのある学校
各階にミニ図書コーナー(ちょっと座る、寝ころぶ)	公道横断に対する安全性確保
武道場の設置【中学校】	中学校校庭への移動として安全を確保してほしい
	メモリアルルームの設置

伝統・文化を学び・遊ぶ 地域とつながる

地域の伝統文化を学べる設備(防音・太鼓をやるため)	藍染を続ける
米づくりのできる学校(現池二小のような)	池袋本町の伝統文化を大切にしていける学校
校庭	
防災拠点となるので土の校庭(スプリンクラー設置)【小学校】	校庭の温度上昇を避ける
校庭はオールウェザータイプ【中学校】	一部でも芝生化
広い校庭	人工芝の校庭のある学校(小中それぞれ)
小学校のグラウンドは多目的に利用できる材質、アーバンがよい	
体育館	
体育館の空調完備	舞台が常設された体育館
体育館の天井を高くする	バスケのゴール、舞台の高さが、小中では違う
広い体育館(小中別)	
プール	
屋内プール(1階がプール、2階が体育館)	室内プールにしてほしい
プールは開閉式の屋根付き	屋内プール(雨でも、寒くても利用できる)(2票)
南池袋小の見学に行きました。プールは上の階がよい	プールの高さ調節ができる学校
和室	和室(お茶や舞踊など)

子どもと地域の拠り所

放課後の居場所	
子どもスキップ施設の充実	放課後においても校内にいられるスペース(中学生)
スキップが校庭横にある	放課後も使用できる自習室(管理員も必要)【中学生】
子どもスキップを校舎内か校庭につくる【小学校】	学校に居たくない年頃でもある【中学生】
地域の方に放課後、教室をやってもらえるスペース【中学校】	小・中学生の放課後の居場所 ⇨ 地域の人が係る仕組みをつくる
教育の拠点と共に地域連携と防災の拠り所となる学校	防災
	池袋本町の防災の拠点(地域の意識)
中学校の校庭(運動場)に関し、障害者が利用できるトイレ等をつくってほしい	災害時に使用できる蓄電池を備える
	非常用発電の設備のある学校
コミュニティスペースのある学校	防災倉庫のある学校
体育館は救援センターとして利用しやすく1階におく	簡易トイレ(災害用)を設置できる下水道設備のある学校
	PTA室
室内プール(地域開放)	P連室、PTA室の完備
50mプールは地域のものではなく、豊島区全体の共有の考えで・・・	PTA 連合会事務局室の確保
	PTA室の確保
	自転車・置き場
	電動式自転車配備
	運動会の時などの自転車置き場
<地域開放>和室のある学校	学校用の自転車置き場が地下になればよい

*グレーの網掛けは施設標準*に含まれる教室・設備です。

1. 子ども達が楽しく過ごせる学校

●楽しい雰囲気づくり

校舎壁面を絵画で飾る
音楽室 2階吹き抜けホール

屋上を立ち入り可に(富士山が見える)
ランチルームある程度明るく大きめに(学年で集える)

●快適に過ごせる・使える校舎・体育館

エレベーターの設置
トイレは大きくきれいに(洋式に)

体育館・教室に冷暖房
スキップを校庭側に

グラウンドに管理室(テラス機能をもたせる)を設置
体育館 中学校大きく小学校は小さく(舞台は設置)

●駐輪場は多めに

中学校のグラウンドにも駐輪場(地下?)
自転車置き場を確保(中学校の校庭にも)

駐輪場の地下化

2. 小中の絆を育む学校

●職員室は隣りに/図書室・PCルームは共用可能に

小中の職員室を隣り合わせに
職員室は小中隣り合わせ 2階中央部分
職員室は2階

小中の図書室は一体的に利用できるようにする。
図書室は小中一緒に 4階(PCルームも)
図書室は小中で使えるように隣り合わせの場所に

PCルーム、図書室は広く共用可

●プールは兼用・屋根付きで

プールは小中兼用できる仕様で屋根付き
プールの水深は調節可天井の開閉式
プールは屋根付き

●高さ調節できるイス・テーブル

ランチルームは・・・中学生と小学生ではテーブル、イスの高さが違うので変動できるように
美術室・図工室も共用できないか(フルに使うわけではない)

■「コンセプト」と「基本方針」

コンセプト ※事務局案では案1がよい

Aグループの案 案①「つながる」 案②「伝統文化を学び遊ぶ 地域とつながる連携校」 案③「学びと安心!! 地域とつながる 小中連携校」
案④「つながりのまち おもいやりのあふれる〇〇小」 案⑤「つながる!を楽しもう 学びと地域と防災の拠点」

基本方針

- ①「子どもが楽しく過ごせる学校」または「やさしさとぬくもりを感じる学校」
事務局案は漠然としている・抽象的/「子どもが楽しく過ごせる学校」がよい すごしやすい 明るい 楽しい 「楽しく過ごせる」に変えたい 「楽しい」「学びやすい」子ども達が楽しく過ごせる
- ②「小中の絆を育む学校」
- ③「伝統文化を学び 受け継ぐ学校」
③と④は重なるのではないか/「つながる」は④へ
- ④「子どもも地域も安心できる学校」
「拠り所」は「つながる」に/防災拠点を強くアピールする/防災を入れたい/安心のつながり/子どもも地域も安心できる学校/地域の人が利用しやすい学校

3. 伝統文化を学び受け継ぐ学校

メモリアルルームは1階へ

学校・学年園 田んぼのある学校

藍染めの瓶置き場

(図工・家庭科室)特別室は1階に(使用頻度が低い)

4. 子どもも地域も安心できる学校

●入りやすい校門・校庭にする

校門は入りやすく安全に
校門は広く、車両も入れるように(災害時)

校庭に緊急自動車が入れるように
大型バスが入れる校庭(中学の校庭でも可)

●日常的に地域も利用する部屋は1階に

コミュニティサロン1階玄関近く
会議室2つ(地域用と学校用)

ランチルームは1階(地域も利用)
校庭に面したところにトイレを・・・(行事時や地域利用)

●災害時避難所となる体育館は1階に

小中の体育館は1階におく
体育館は1階 校庭側(避難所となるため)

●防災拠点としての設備を

プールのシャワー室にプールの水を
プールの水を飲用、トイレ用に使う

災害用備蓄施設等の地下化
地下シェルター

地下に50mプール 温水に。防災面からも豊島区の施設財産と考えると
(でかい体育館)2000㎡の土地も防災特区として(学校は防災拠点)

非常用LPガス設置
防火用水を周辺に多くつくる(防災拠点)

校庭にはマンホールトイレ 土が?材質は?
グラウンドに災害時専用トイレ等の設置

●敷地間の移動の安全を確保する

中学校の校庭への移動 地下道と2階から行けるようにして!
横断の安全(歩道橋)

開放部分は普通教室への通路とは別の通路で行けるように
教室が2階より上なので、中のグラウンドへ行くための陸橋がほしい

中校庭 渡り廊下 校舎2階より中校庭へ
横断歩道橋(3階部分)

●地域からの入口は専用で利用しやすく

地域の利用者の方の出入口
地域利用者用の入口をつくる(専用)

バリアフリーの入口

●近隣への音に配慮した配置

音楽室、体育館は民家から遠い場所に(騒音対策)

●緊急車両・輸送車両のアクセスに配慮した配置

保健室も道路から入れるところに
備蓄倉庫の前の道路は広幅員であること

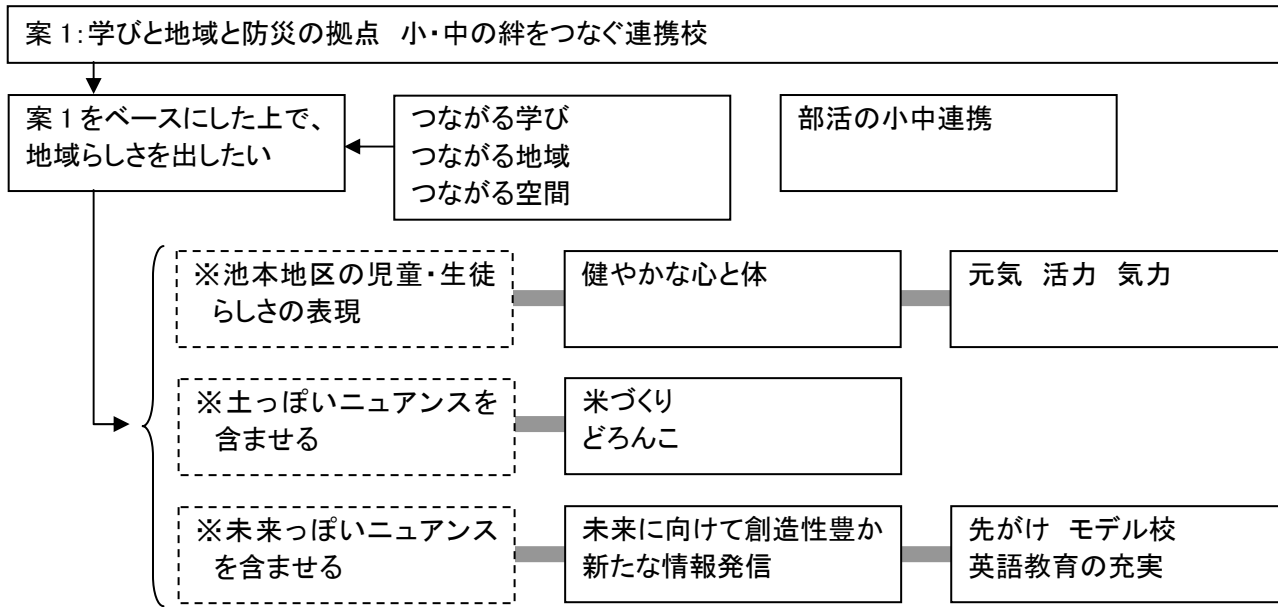
●地域の交流や防災に役立つ植樹

外構に植樹して 延焼防止に大事
桜の木は絶対必要(入学式 地域交流花見)

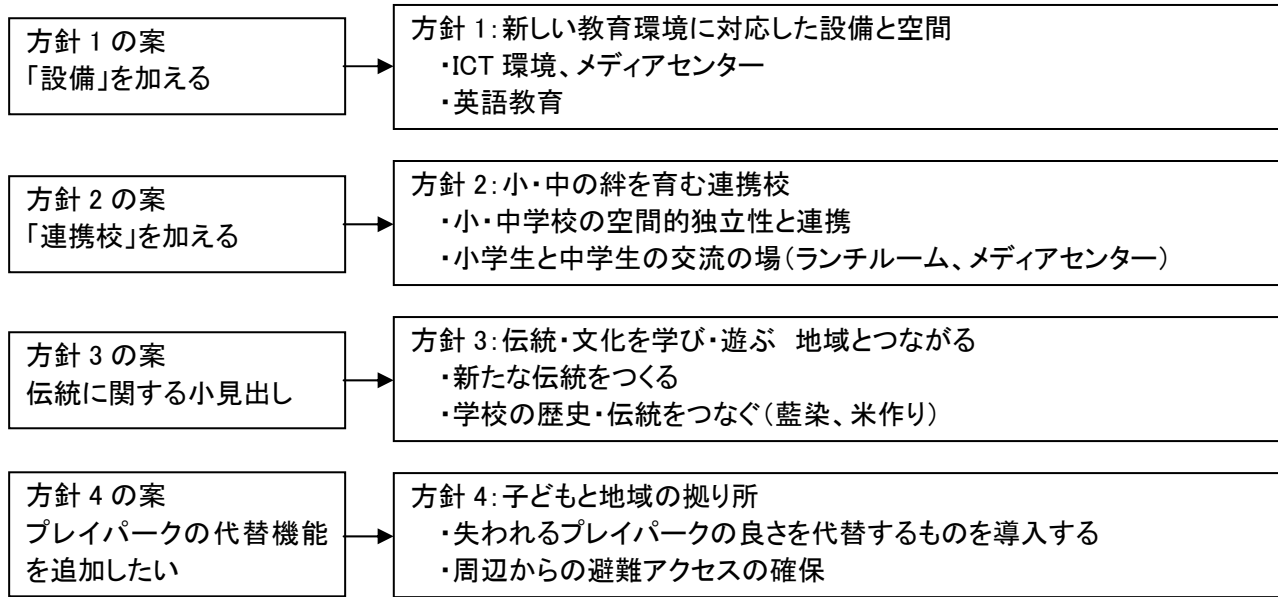
●敷地の周囲も災害時に備えて整備する

学校周辺の道路を拡げる 角のすみ切りも必要
電柱の地中化

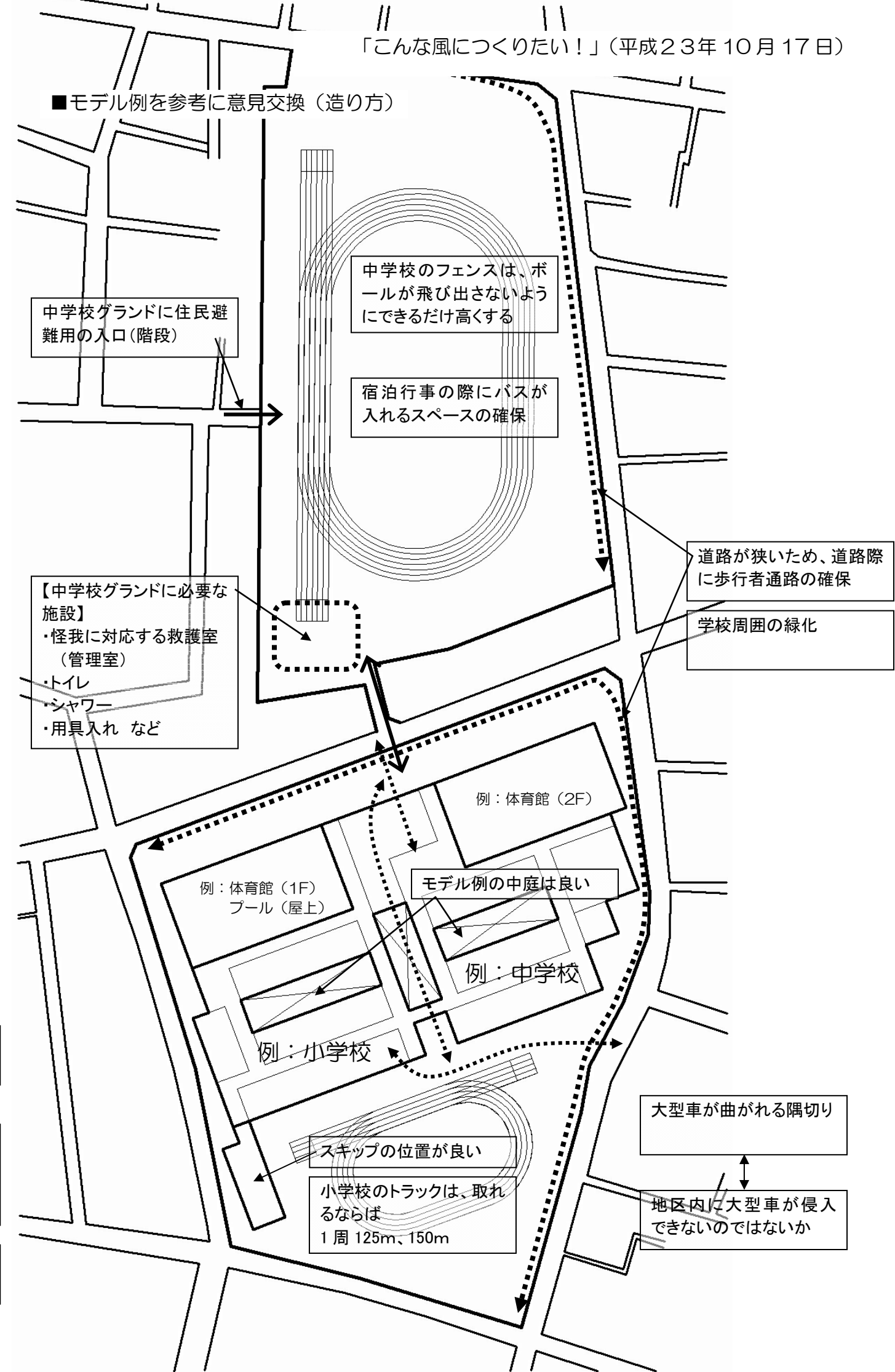
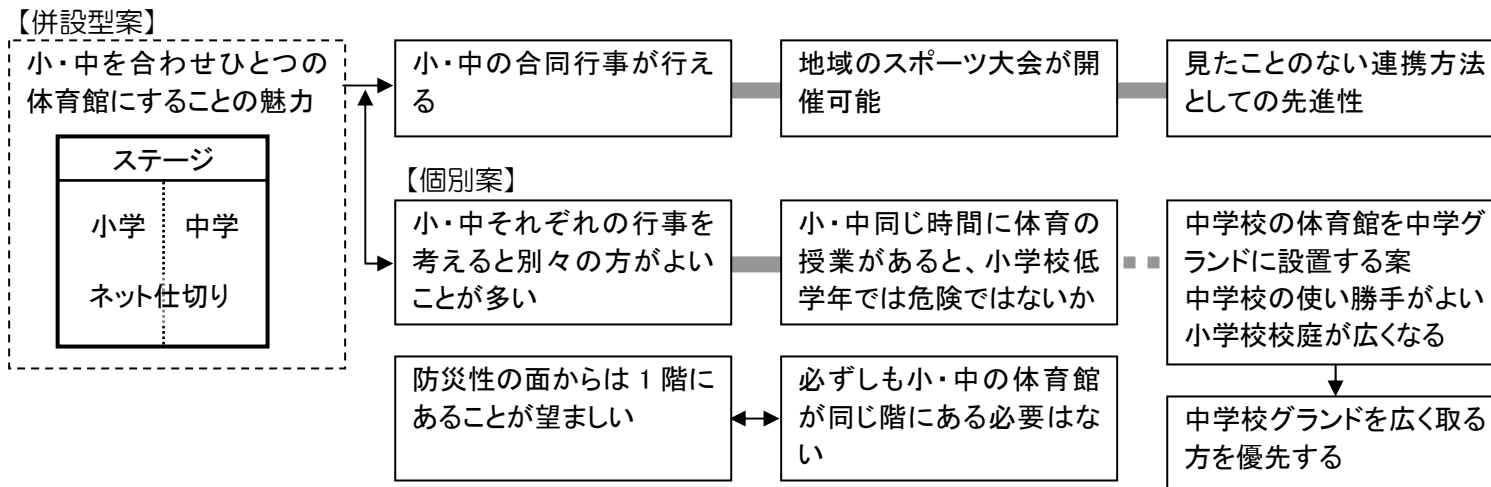
■コンセプトについて



■基本方針について



■小・中の交流・連携に応えるために体育館を利用する方法に関する議論



こんな風につくりたい！

整備方針

全体

1. 明るさと温かみのある雰囲気になるよう整備する。
2. 死角を作らないように配慮しつつ、連携校としての広さを活かして整備する。
3. 適切な日照・採光・通風等や冷暖房設備の充実等の室内環境を備えた環境を整備する。
4. 多様な、子ども・教職員・地域利用者及び災害避難者等を考慮し、出入口、スロープ、階段、トイレ等についてバリアフリーに配慮する。
5. 校舎全体におけるICT環境に配慮する。

教室（普通教室・特別教室等の子どもの利用する場所）

1. 学習活動に伴い、騒音・振動・臭気等を発生する教室は、他の空間・近隣に過度の影響を与えないように配慮する。
2. 普通教室は、日照、採光、通風等の良好な環境条件及び室内環境の確保に特に配慮して整備する。
3. 普通教室は、教職員・保護者等が廊下側から見とおすことができ、児童・生徒の集中の妨げにならないように配慮する。
4. 図書室、コンピュータ室、視聴覚室等メディアを活用する学習を行う教室については、役割分担を明確にしたうえで、機能的な連携に配慮する。
5. 図書準備室は図書ボランティアの使用に配慮する。
6. ランチルーム、家庭科室、給食室等の調理・食事・食育に活用する部屋・設備については、関連・連携に配慮する。
7. 特別教室は子どもの学習や研究成果を展示・発表ができるよう整備する。
8. 教室はインターホンや鍵等で防犯対策を施す。

管理諸室

1. 職員室等の管理諸室は校庭・出入口等への見通しが良く、校内各所への移動のしやすい場所に設置する。
2. 保健室等のけがに対応する部屋は運動施設との連絡が良く、緊急車両が乗り付けられる位置に配置する。
3. 保健室及びカウンセリング室等の相談に活用する部屋については日常に目に触れやすく、立ち寄りやすい位置にし、連携に配慮する。
4. 小学生が利用する保健室については、トイレやシャワーの設置を考慮する。
5. 教職員用の更衣室・シャワー等を設置する。

1	やさしさとぬくもりを感じる学校	モデル例の中庭は良い	広い校庭
2	広い図書室〈小中一緒 小中別に〉必要に応じて	(でかい体育館)2000㎡の土地も 防災特区として(学校は防災拠点)	トイレは大きくきれいに(洋式に) ランチルームある程度明るく 大きめに(学年で集える)
3	冷暖房完備	音楽室、体育館は民家から遠い 場所に(騒音対策)	
4	車いす用のトイレ設置	バリアフリーの入口	エレベータの設置(車いす) 校門は入りやすく安全に
5	ICT設備が充実した学校	パソコンルームは設けず、全教室で 利用できる環境にしたい	

1	子どもが楽しくすごせる学校	音楽室、体育館は民家から遠い場所に (騒音対策)	
2	全教室にエアコンがある(準備室は なくても可)	風通しのよい教室(通気)	
3	教室は普通の教室のつくり。 廊下側からの見通し 【中学校】	教室の廊下側の壁は引き戸方式で、 時にオープンにできる方式【小学校】	中学校の教室はオープン教室 でない方がよい
4	調べ学習の部屋をメディアセンターに	メディアゾーンとする (図書室とPC室)	広い図書室〈小中一緒 小中別に〉必要に応じて
5	図書準備室がある学校	図書室に司書を配置	
6	給食室が見えるランチルーム		
7	ミニステージ付きの音楽室	音楽室 2階吹き抜けホール	
8	職員室と教室をインターホンで結ぶ	教室内に鍵(不審者対策)	個別ロッカー(鍵付き) 【中学校】

1	職員室は2階	来校者の管理が徹底できるような入口に	
2	【中学校グラウンドに必要な施設】 ・怪我に対応する救護室(管理室)、 トイレ・シャワー・用具入れ など	保健室も道路から入れる ところに	
3	保健室とカウンセリングルームを隣に して行き来できるようにする		
4	保健室内にトイレとシャワーを 設置		
5	教員用更衣室・シャワーなど設置		

体育館・武道場

1. 体育館は災害時の避難場所になることを考慮した設備・配置とし、トイレや防災倉庫等の連携に配慮する。
2. 多様な運動種目と行事を想定した配置・構造・設備とし、校庭の広さを考慮した規模にする。
3. 発声・衝撃等の近隣への影響に十分留意して設置する。
4. 更衣室等と連携のとれる位置への配置に留意する。

プール

1. プールは屋根付きプールとし、使用状況・利便性等を考慮した上で、設置場所、規模・構造・設備について検討する。
2. 災害時の利用を考慮するとともに平常時の水の再利用を検討する。

トイレ

1. トイレは洋式・乾式で、男女別に適切な規模で使いやすく、清潔さを保つためのメンテナンスがしやすいように整備する。
2. 校庭から直接利用できるバリアフリーに配慮したトイレを整備する。

子どもの交流スペース

1. ピロティ、ランチルーム等、雨の日でも1学年程度が集まれる広さのある場所を整備する。
2. 各フロアに、図書コーナーやベンチスペース等、休憩・交流し、くつろげる場所を整備する。

小中連携

1. 体育施設・特別教室については小中の共有化を検討し、適切な配置・規模・設備にする。
2. 小中が共用で利用する場所は、体格差に配慮した施設・設備とする。
3. 職員室は、小中連携に配慮した配置とする。
4. 体育館は、通常授業及び部活動、小中別の行事での利便性を考慮し、小中連携を検討する。
5. 図書室は、小中の相互利用等の連携に配慮した配置とする。
6. 子ども達が一度に集まるスペースでは安全性・配置・動線に配慮する。
7. 小中学校の通常の学習・生活に適したゾーニングとする。

地域利用・地域開放

1. 各室の地域開放を検討した上で、地域開放スペースを整備する。
2. 災害時の利用も考慮した上で、学校と地域の動線が交差することのないよう独立動線の確保を行い、高いセキュリティを確保する。
3. 通常使用される自転車置き場を整備に加え、イベント時にはたくさんの自転車が集まることを考慮したスペース作りをする。

武道場の設置【中学校】					
1	体育館は救援センターとして利用しやすく1階におく	簡易トイレ（災害用）を設置できる下水道設備のある学校	防災倉庫のある学校	体育館は冷暖房設置	
2	バスケのゴール、舞台の高さが、小中では違う	（でかい体育館）2000㎡の土地も防災特区として（学校は防災拠点）	舞台が常設された体育館	体育館の天井を高くする	広い体育館 〈小中別〉
3	音楽室、体育館は民家から遠い場所に（騒音対策）		体育館 中学校大きく 小学校は小さく （舞台は設置）	中学校グラウンドを広く取る方を優先する	
4	子ども用の更衣室	部活の後に使えるシャワールーム設備【中学校】			

1	屋内プール （1階がプール、2階が体育館）	南池袋小の見学に行きました。プールは上の階がよい	プールの水深は調節可 天井の開閉式	地下に 50mプール 温水に。防災面からも 豊島区の施設財産と考 えて
2	プールのシャワー室にプールの水を	プールの水を飲用、トイレ 用に使う		

1	トイレの入口はドアがなく ても見えない方式	トイレは男女離して、きれいな ものをつくってほしい	トイレは洋式・ ドライ方式	トイレは大きくきれいに （洋式に）
2	校庭に面したところにトイレ を・・・（行事時や地域利用）	車いす用のトイレ設置	中学校の校庭（運動場）に関し、 障害者が利用できるトイレ等 をつくってほしい	

1	1階にピロティを広くとる 雨の時、1学年くらい集まれる広さ		ランチルームある程度明るく大きめに（学年で集える）	
2	各階にミニ図書コーナー（ちょっと座る、寝ころぶ）		オープンスペースのある学校	

小・中の絆				ランチルーム〈小中共用の広いランチルーム〉	
1	美術室・図工室も共用できないか （フルに使うわけではない）	プールは小中兼用できる 仕様で屋根付き	体育館を併設型にすると小・ 中の合同行事が行える	広い図書室〈小中一緒 小中別に〉必要に応じて	
2	ランチルームは・・・中学生と小学生ではテーブル、 イスの高さが違うので変動できるように		図書室は小中一緒に 4階 （PCルームも）		
3	小中の職員室は隣り合わせの学校	職員室はガラス張り（ティーチャーズセンター）			
4	体育館は小・中それぞれの行事を考えると別々の方がよいことが多い			必ずしも小・中の体育館が同じ階にある必要はない	
5	小・中の図書室を互いが使用できるように近接型にする				
6	小・中同じ時間に体育の授業があると、小学校低学年では危険ではないか				
7	中学校のスペースと小学校のスペースの区別をはっきりして ほしい		小学校・中学校では文化が違う。校舎・施設 は別々に・・・！		

教育の拠点と共に地域連携と防災の拠り所となる学校					
1	ランチルームは1階 （地域も利用）	会議室2つ（地域 用と学校用）	〈地域開放〉和室 のある学校	50mプールは地域のものではなく、 豊島区全体の共有の考えで・・・	P連室、PTA室 の完備
2	不審者をおさえられる仕 切りの仕組み	地域の利用者の方の出 入り口	開放部分は普通教室へ の通路とは別の通路で 行けるように	室内プール〈地域開放〉 音楽コンサート用施設	
3	運動会の時などの自転車置き場	電動式自転車配備	校門は入りやすく安全に		

交流・コミュニケーション・子どもの放課後

1. 子ども・教職員・地域住民が交流・相談できる場所を整備する。
2. 藍染め・太鼓・米づくり・茶道・舞踊等の伝統文化を学べる場所を整備する。
3. 子どもスキップが学校施設と連携しつつ、独立性を保てるように校地内に整備する。
4. 中学生の放課後の居場所について検討する。

防災

1. 地域の防災拠点としての機能を十分に備えた施設を整備する
(マンホールトイレ・備蓄倉庫・非常用発電設備ほか)。
2. 救援センター機能の充実のため、防災用地の活用を検討する。
3. 災害時のプールの水が活用できる設備を検討する。
4. 災害時の近隣から学校への非難経路に配慮する。

校庭・外構・近隣配慮

1. 校庭舗装・規模は利用状況、騒音・ほこり等、近隣への影響、災害時の活用等に配慮する。
2. 校庭の温度上昇に配慮する。
3. 校庭に緊急車両やバス等の大型車両の乗り入れを検討する。
4. 中学校の校庭に、倉庫、トイレ、シャワー、救護室(管理室)等を整備する。
5. 中学校の校庭に生徒が移動する際の安全を確保する。
6. 近隣に対し、学校活動に伴う騒音やボールの飛び出し等に配慮する。
7. 学校の入口は安全かつバリアフリーであるとともに、犯罪・事故防止の観点から、職員室や主事室等の管理所室からの見通しが良く、死角とならない位置に設置するよう配慮する。
8. 児童・生徒の作品を展示する等地域が学校を身近に感じられるよう整備する。
9. 学校の周囲は歩行通路や大型車両の通行に配慮する。
10. 地域交流や災害を考慮した緑化計画とする。
11. 敷地の有効活用を図るため、地下利用を検討する。
12. 外構計画は、大雨の際の雨水を自校地内で処理できるよう配慮する。

環境配慮

1. 環境負荷の低減や、自然との共生を考慮して整備する。
2. 学校自体が環境教育の教材として活用されるよう、自然と触れ合う機会が増えるよう整備する。
3. 温熱効果ガスの排出量を削減するため、断熱化や日射遮蔽等の建物性能の向上を図るとともに、照明や冷暖房設備の効率化を図る。

教育の拠点と共に地域連携と防災の拠り所となる学校			
1	職員室はガラス張り (ティーチャーズセンター)	コミュニティサロン1 階玄関近く	保健室とカウンセリングルームを隣にして行き来できるようにする メモリアルルームは1階へ 校舎壁面を絵画で飾る
2	小・中学生の放課後の居場所 ⇔地域の方が係る仕組みをつくる	地域の方に放課後、教室をやってもら うスペース【中学校】	
3	和室 (お茶や舞踊など)	ミニ舞台・盆踊り会 場(地域とつながる)	藍染めの瓶 置き場 学校・学年園 田んぼのある学校 地域の伝統文化を学べる設備(防 音・太鼓をやるため)
4	子どもスキップを校舎内か校庭につくる	スキップの位置が良い	
4	放課後も使用できる自習室(管理員も必要)【中学生】	学校に居たくない年頃でもある【中学生】	

教育の拠点と共に地域連携と防災の拠り所となる学校						
1	グラウンドに災害時 専用トイレ等の設置	災害用備蓄施 設等の地下化	防火用水を周辺に多 くつくる(防災拠点)	非常用発電の設 備のある学校	非常用 LP ガス設置	校庭にはマンホールト イレ 土が?材質は?
2	(でかい体育館) 2000㎡の土地も防災特区として(学校は防災拠点)					
3	地下に50mプール 温水に。防災面からも豊島区の施設財産と考えると					
4	中学校グラウンドに住民避難用の入口(階段)				小学校のトラックは、取れ るならば 1周 125m、150m	

1	防災拠点となるので土の校庭(ス プリンクラー設置)【小学校】	一部でも芝生化	小学校のグラウンドは多目的に利 用できる材質、アーバンがよい	校庭はオールウェザータ イプ【中学校】
2	校庭の温度上昇を避ける			宿泊行事の際にバスが入れるスペースの確保
3	校庭に緊急自動車が入れるように	大型車が曲がれる隅切り	地区内に大型車が侵入できないのではないかと	
4	【中学校グラウンドに必要な施設】・怪我に対応する救護室(管理室)・トイレ ・シャワー ・用具入れ など			
5	中校庭 渡り廊下 校舎2階より中校庭へ	横断歩道橋(3階部分)	中学校の校庭への移動 地下道と2階 から行けるようにして!	
6	音楽室、体育館は民家から 遠い場所に(騒音対策)	中学校のフェンスは、ボールが飛び出さ ないようにできるだけ高くする		
7	来校者の管理が徹底できるような入口に			
8	校舎壁面を絵画で飾る			
9	備蓄倉庫の前の道路は 広幅員であること	学校周辺の道路を拡げ る 角のすみ切りも必 要	道路が狭いため、道路際 に歩行者通路の確保	
10	外構に植樹して 延焼 防止に大事	桜の木は絶対必要(入学 式 地域交流花見)	学校周囲の緑化	
11	地下シェルター	学校用の自転車置き場 が地下になればよい	災害用備蓄施設等の地下 化	電柱の地中化

1	屋上緑化	壁面緑化	太陽光発電	雨水利用	学校・学年園 田んぼのある学校
2	屋上を立ち入り可 に(富士山が見える)				
3	教室にベランダ (日除け目的)	トイレの電気は感知式 (節電)	手洗いは自動水洗 (節水)		

■コンセプトおよび基本方針検討における主な意見

（1）基本方針について

- ・伝統・文化の他に「歴史」を入れたい。
- ・学校には、地域の防災、青少年、福祉等、すべての要素が関わってくるもの。「福祉」も入れたい。
- ・「福祉」を入れるのであれば基本方針4ではないか。
- ・基本方針4の4番目の文章に「多様な利用者」とある。この前に「高齢者等」と入れてはどうか。
- ・中学校では「楽しく」という言葉は使用しない。「主体的に学び、ゆたかにすごせる」ではどうか。
- ・小学生と中学生では、学校生活は大きく変化する。主体的に学ぶ面が増える。
- ・「楽しく」が重なっている。「楽しく学ぶ」については、別に検討した方がよい。
- ・「楽しく」が2つあるのは、たしかに多いが、1つは残してほしい。
- ・小学校低学年であれば「楽しく学べるんだよ」という呼びかけでもよいが、中学も3年生にもなると、主体的に学ぶことが必要になる。しかし小学生に「主体的」と言っても難しいので、「自ら学ぶ」というのはどうか。
- ・「楽しく学び すこやかに育つ」ではどうか。
- ・「自立心」を表現したい。
- ・「知・徳・体を育む連携校」ではどうか。

（2）コンセプトについて

- ・「つながる学び つながる地域 つながる空間」は「つながる」が続きすぎなので、一つずつ「 」で区切ってはどうか。
- ・前回、「絆」という言葉がたくさん出された。「絆」をぜひ入れたい。
- ・皆様のご意見では、小・中・地域がつながる連携校～学び・交流・防災の拠点～の方よさそうだ。これに絆をからませたい。

■建物ボリュームと配置検討

- ・東側の道路と敷地に高低差があるが、具体の改善策は今後、計画の中で考えること。
- ・運動会を考えると、校庭はできるだけ広い方がよい。
- ・プレーパークに代わるものが欲しい。
- ・地下室は16,000㎡の中に含まれないのであれば、地下利用も考えてよい。
- ・カビのこと等を考えると、できれば地下室はつくりたくない。
- ・プールの屋根は開閉式にしてほしい。
- ・B案で、中学校に陽差しは入るのか。常にあたるわけではないということであれば、その点、A案の方が平等だろう。校庭もA案の方が広くなる。校庭は広くなければ、と思う。
- ・A案の方が先生方の使い勝手がよさそうだ。
- ・体育館の共用は避けたい。パーティションで区切っても、隣の音は漏れるだろう。
- ・駐輪場は半地下がよい。
- ・池袋中の脇の高低差の低い部分を利用して駐輪場に利用してはどうか。
- ・中学のグラウンドへの移動は、民間に協力してもらって橋をかけた方がよい。

(5) かみいけ♥いけほんつながり隊 地域文教部会 部会員紹介&建設に向けて

部会長



池袋第一小学校PTA
会長 渡邊 靖彦

「二十一世紀にふさわしい学校」子どもたちにとって、義務教育9年間という大切な時期の生活拠点となる学校。社会環境が変わっても充実した小学校・中学校生活を過ごせるよう、学びの場として、生活の場として最善の施設を提供したい。また、地域の交流、振興の場として、防災拠点としての機能も充実し、時代のニーズに応える施設を建設してほしい。

副部会長



池袋第二小学校PTA
会長 田中 昌代

子供たちの「元気なあいさつ」が飛び交う学校。子供、保護者、先生方地域の皆さんとの絆が深まる学校。子供たちが「この学校を選んで良かった」と喜んでもらえる学校にしたいです。

小学校、中学校、それぞれの個性を生かせる場、地域の防災の拠点として安全・安心を得られる場にしたいです。



桜と柏の融合の場に
人々が集う

池袋中学校PTA
会長 古賀 潤子

超、高齢化時代を背負わされた、子供たちの明るい未来や、健やかに育て頂く為の、環境づくり、より良い学校施設にするための協力で、間接的に子供たちを見守っていききたい。



上池袋池八町会
持田 武利

1. 子どもは社会・人類の財産
⇒ 美術館・博物館並みの建築予算を
2. 学校は平日の昼間一番元気な場所
⇒ 賑わいをまちの活性化につなげる工夫を
3. 学校は子どもたちのもう一つの住居
⇒ 学習と食事と遊びのスペースを別々に



上池袋まちづくり協議会
第3地区会長 戸田 汎



第2地区青少年育成委員会
環境部会副部長
長橋 けい子

次の時代を担う子ども達が誇りに思える学校
地域の安全・安心の拠点になる学校
人と人との絆が育まれる学校
となることを希望します。

50メートルプール・バレーコート3面とれる大きな体育館、中学レベルのサッカーグラウンド、豊島区の体育大会ができる施設。スポーツ、福祉、文化そして防災に配慮された学校です。



生徒達には素晴らしい教育環境、地域のコミュニケーションの場として災害時には地域住民の命を守る、地域と共に歩む学校施設です。

池袋第二小学校同窓会
会長 中村 勝則

子供達が学びやすい校舎
工コで災害時に強く、対応できる学校をイメージして考えていただきたい。
防災用地の統合も考えてください。



文成小学校同窓会
会長 名取 彰

智を磨き
情を耕す } そのために
3C
Cooperation (協力)
Communication (相互理解)
Common sense (良識)
のある学校、そして、池一、統合校、池中の3校が小中連携の和でつながり、地域の皆様が誇りに思っていただける学校になることを目指して頑張ります。



文成小学校
校長 中丸 俊晴



池袋中学校
校長 堀 利光

子どもたちの笑顔あふれる学校。小学校・中学校・地域の絆を深めるとともに防災や環境、バリアフリーに配慮した学校。ここで学ぶことが待ち遠しくなる学校づくりをめざします。

副部長

子供たちが、自分達の育った教室や校舎を愛し、誇りに思える学校に、、、こうした強い願を込めて、先生達や区と住民が協働で討議しています！



池袋本町新しいまちづくりの会
副会長 野口 一治

すべての子供たちが笑顔で通える学校、皆が誇りに思える学校にしたいです。



文成小学校PTA
会長 吉田 多賀子



池袋本町末廣町会
会長 東原 正人

地域外の子ども達が、池袋本町の新しい小中併設校に通いたいと言ってくれる未来感覚の機能が詰まった学校にし、将来的には、小中併設校にして良かったと誰もが思う学校にしたい！



池袋本町四丁目町会
会長 西野 清

防災ひろばの発足から数年たってから検討会で文教地区にしたら。という意見がありましたから、連携校が一端を担えば良いと考えます。

地域に開かれた学校を目指し、培われた文化・歴史を継承し、子ども達にいつまでも心に残る学校づくりをして欲しいと思います。



第11地区青少年育成委員会
副会長 山本 道子

行政・地域・小学校・中学校が絆を深めるすばらしい校舎併設型小中連携校をそれぞれの立場の皆様方のご意見を集約し、要望したいと思います。



池袋第一小学校同窓会
会長 武石 雅彦



池袋第一小学校
校長 功刀 道子

池中を核とした小中の交流や小学校同士の交流がしやすい、そして、地域の人も足を運んでくれる使い勝手の良い校舎ができるとよいです。



池袋第二小学校
校長 石坂 恵美子

「地域の方と交流できる安全安心な学校」
日常的に、地域の方と子供たちが互いに交流できる学校が理想です。
災害や不審者対応などに安全安心な学校であると同時に、地域の方々と交流し易い学校ができることを願っています。

「かみいけ♥いけほんつながり隊」の皆様には、お世話になりました。特に「地域文教部会」の皆様、真剣なご議論をいただきましたこと感謝申し上げます。皆様の熱い思いが込められました「建設構想」を、今後の設計にできるだけ反映するよう努力いたします。



豊島区教育総務部
部長 齊藤 忠晴

学校を愛する地域の人たちの思いがたっぷり詰まっている提言書が約一年かけて完成しました。今後は、この提言書の内容を具現化できるよう設計を進めていきたいと思います。
また、設計を進める中で、皆様のご意見を頂戴できればと思っていますので、よろしく願います。



豊島区施設課
課長 野島 修



かみいけ ♥ いけほん つながり隊 地域文教部会

平成 24 年 3 月